

患者さんの『満足度』の 向上をめざして

～臨床で直ぐに役立つ義歯のノウハウ～

山形屋歯科坂上医院
坂上俊保





スライド : <https://www.yamagataya-sika.jp/sanwa.pdf>

動画 : <https://www.yamagataya-sika.jp/sanwa.mp4>





義歯作製の力量を上げるためには どうすればよいか

- 出来るだけ沢山の義歯の本を読む、DVDを見る。
(義歯作製の基本や、色々な著者独特の考え方を
たくさん身につける。)
- 成書に書いてある通りにやってみる。
- うまくゆかない時には、義歯の成書に書いてある事を疑って
みる。
- 色々考えて、思いついた事を試してみる。
- ダメなら、出来るまで脳みそがぐちゃぐちゃになるまで考える。
- 今まで常識だと考えていた事を疑ってみる。



顔の輪郭による噛み方の特徴

弥生型



縄文型



『タッピング噛み』を多く行う傾向がある

『グライディング噛み』を多く行う傾向がある

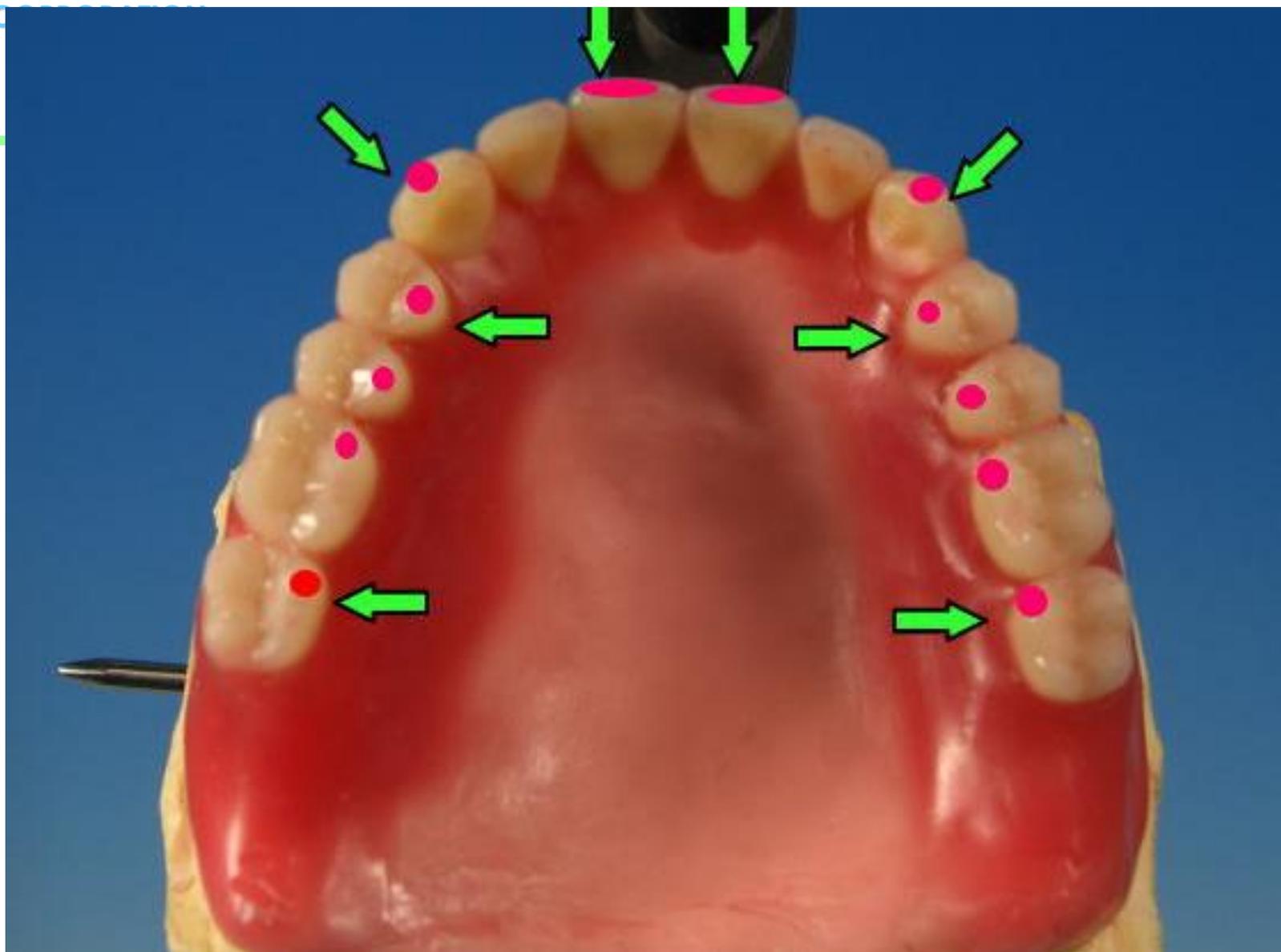
下顎義歯が吸着する程度



人工歯配列



- 人工歯配列をパターン化できないか
- 楽に人工歯配列ができないものか
- 義歯装着後、出来るだけ調整が少ない方が良い
- 誰が配列しても、いつでも同じ機能が発揮できる
- 義歯装着後に、良く噛めるようになる配列



大坪建夫先生が考案した『**平行法人工歯配列**』(ピンクの印が同一平面上になる)
調節湾曲が付与された人工歯では、矢印の部分の舌側咬頭が同一平面になる

高宮歯科工業TED半調節咬合器



TED 半調節性咬合器 NDU-77



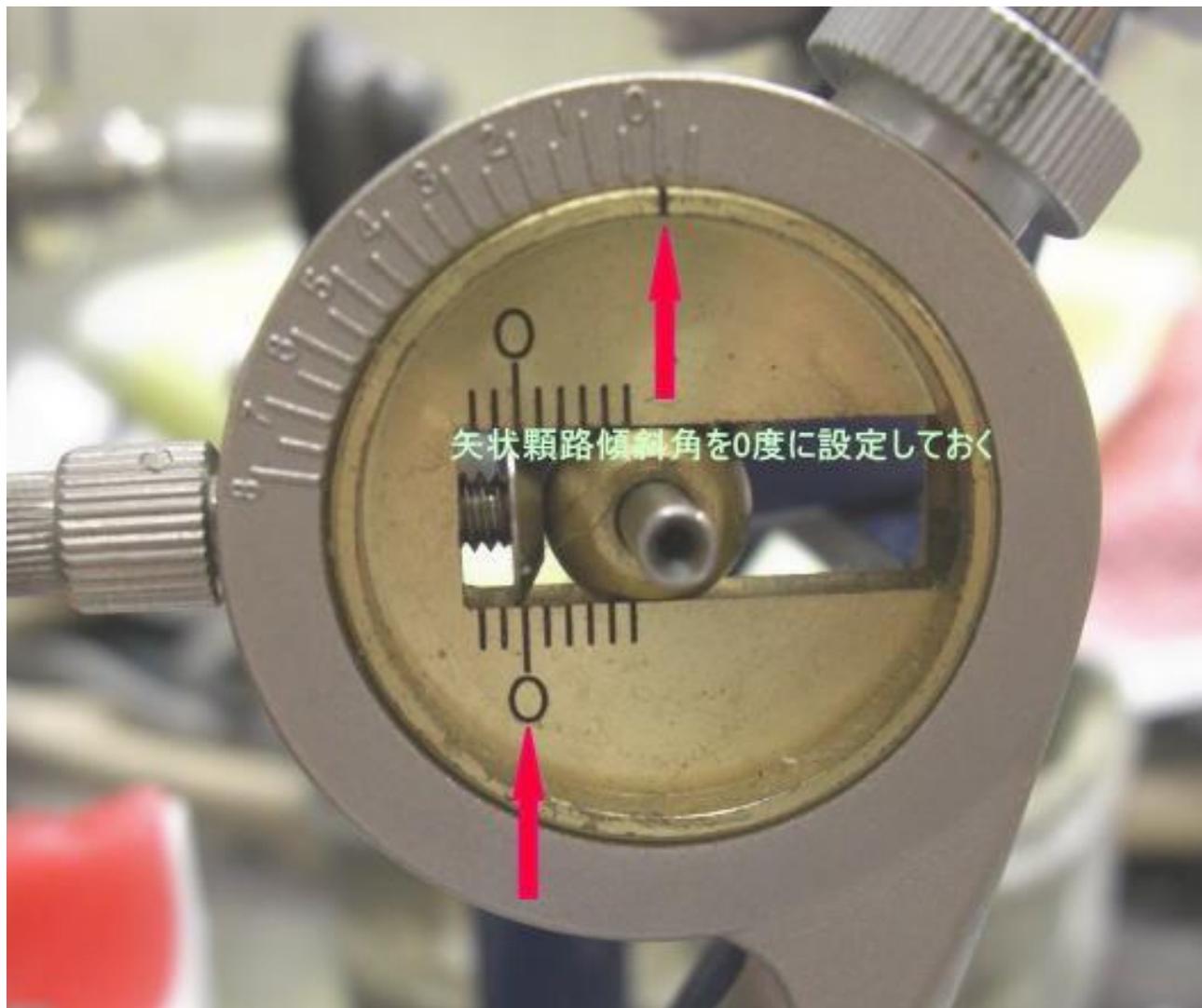
コンダイラータイプ→上弓に顆頭球

ウィップミックス ハノー咬合器 H20



コンダイラータイプ→上弓に顆頭球

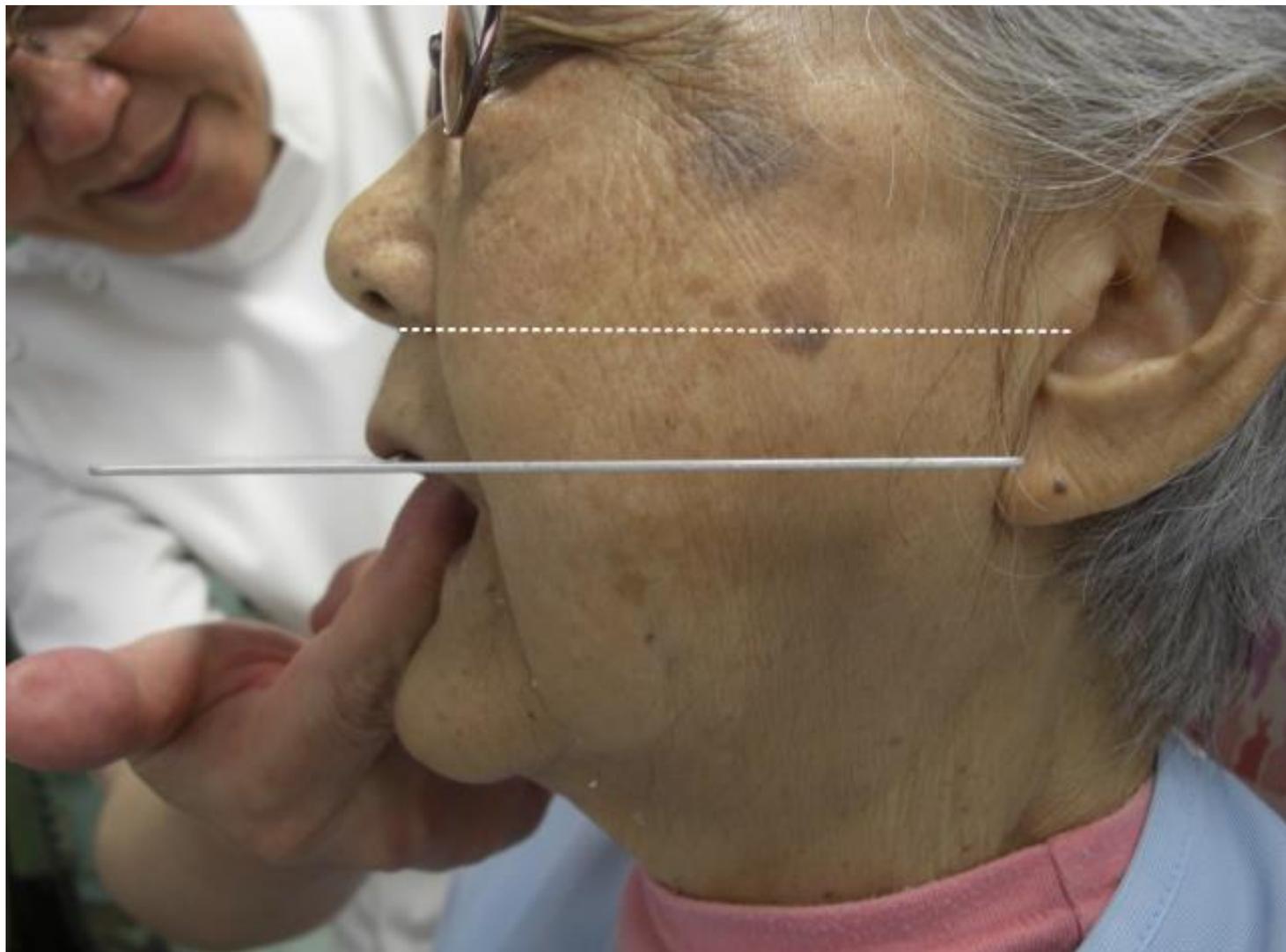
矢状顆路傾斜角を0度に設定しておく



スナップ印象を使って上顎のロウ提を作製する



ロウ提下面を鼻聴導線と平行にする



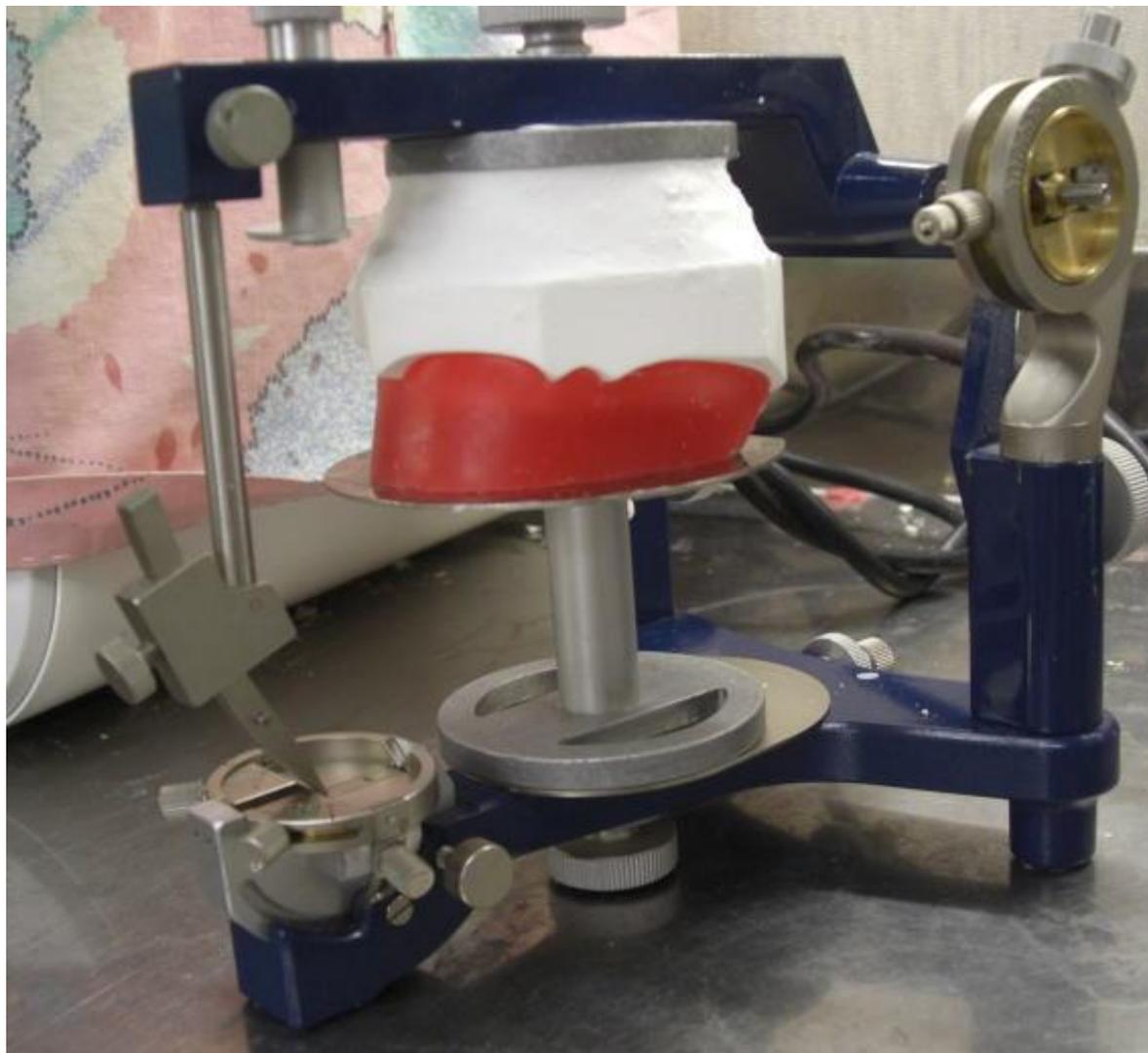
『ピタ中』を使って前歯の配列状態を見てみる



咬合平面と上顎前歯の位置が決まる



咬合器の平面板を使用して上顎模型の咬合器付着



続けて下顎模型を咬合器に付着



下顎を外して水平板に変える



水平板の上で上顎前歯を配列する。



水平板の上で、左右の中切歯と犬歯が同一平面に来るように人工歯を丁寧に配列する。

水平板を外し、下顎模型を装着する



液晶ディスプレイアーム(2500円~3000円程度)



液晶ディスプレイアームの設置



レーザーポインターで任意の歯槽頂の位置を照らす。

工夫次第で色々な レーザーポインター照射器が作れる。



スーパークランプマウント ボールヘッドアーム ダブルボールアダプタと接写装置との組み合わせ



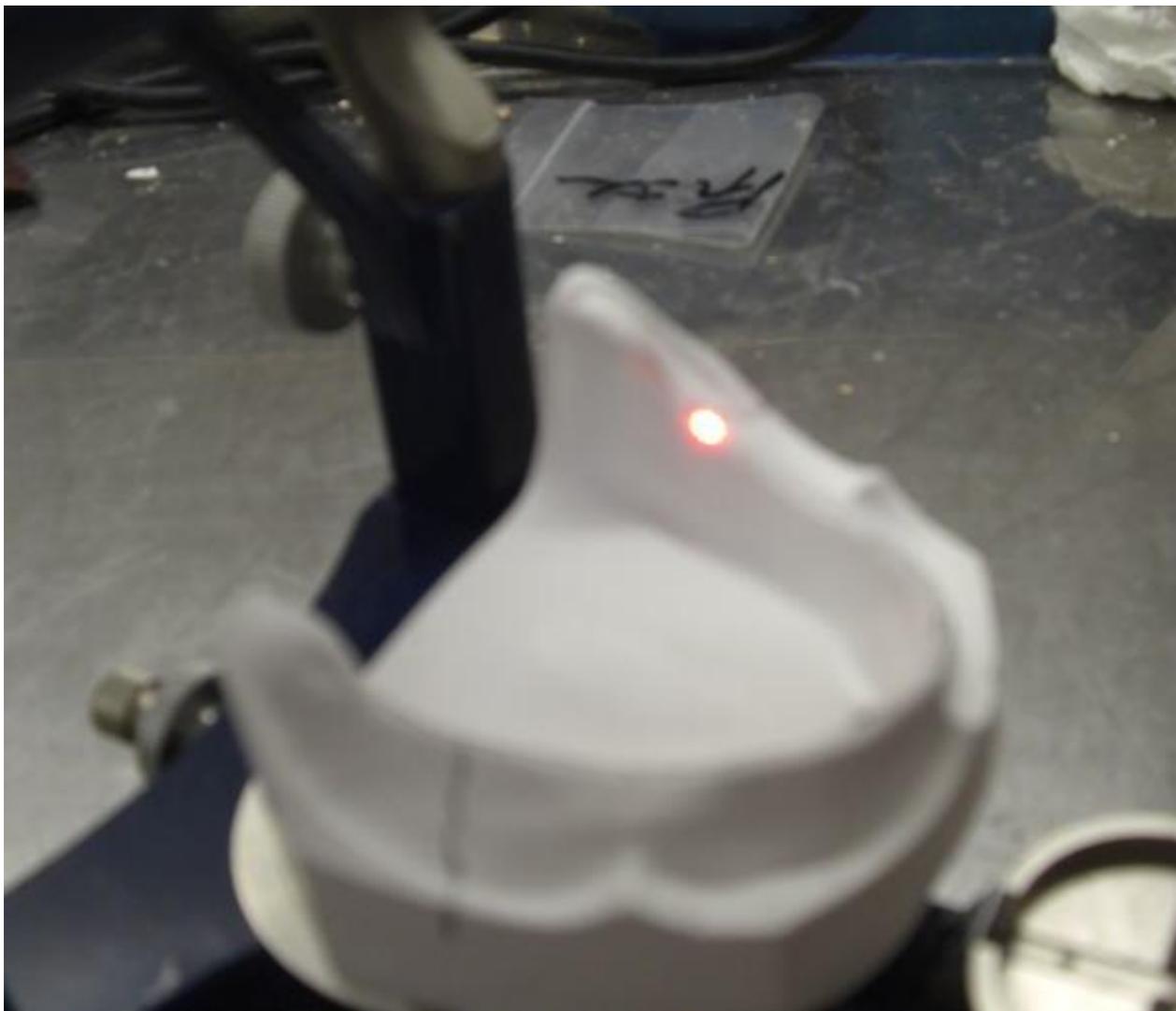
サーベイヤーを利用して作製



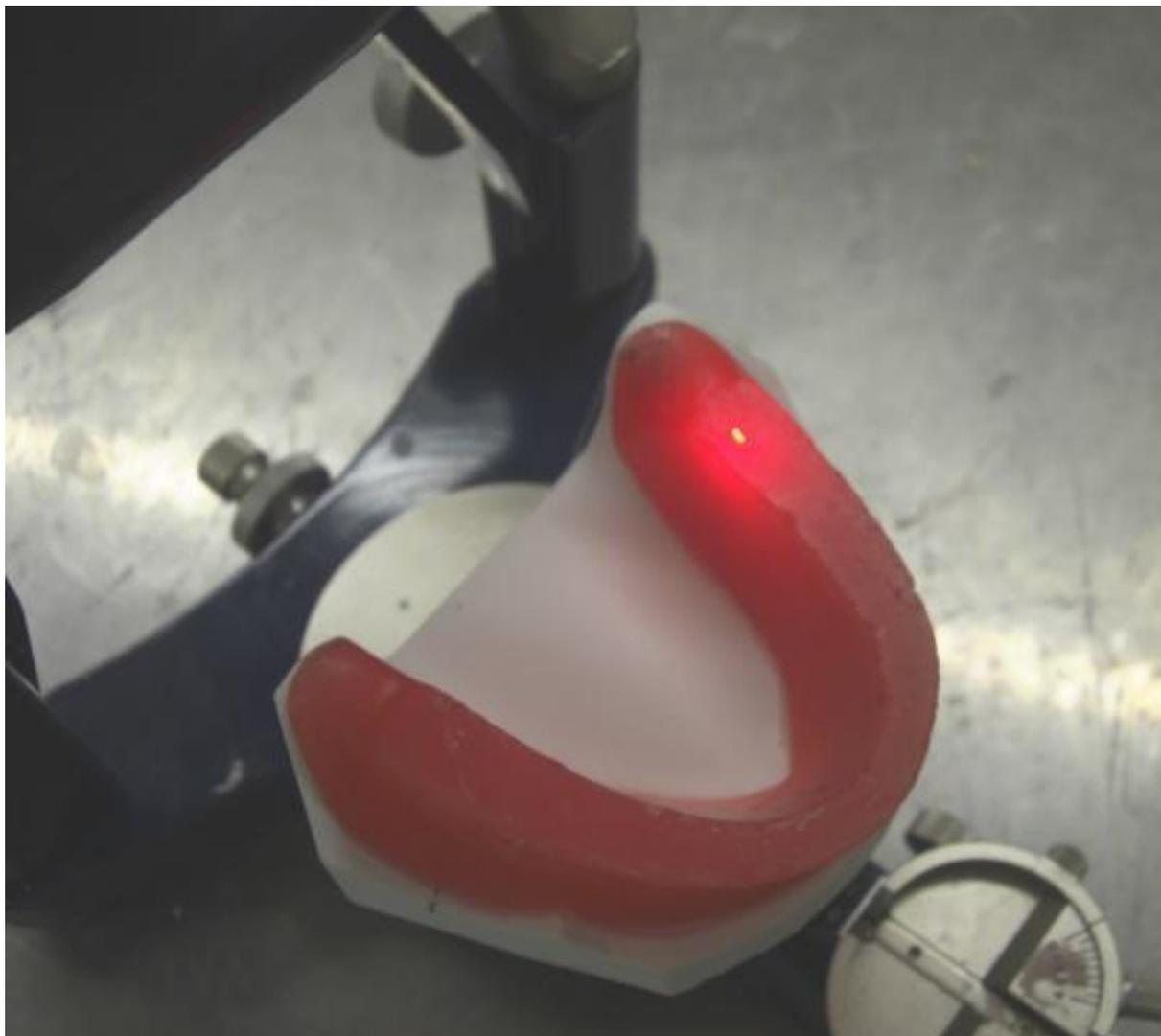
レーザーポインターの光を歯槽頂に当てる



歯槽頂の任意の位置に光を当てる



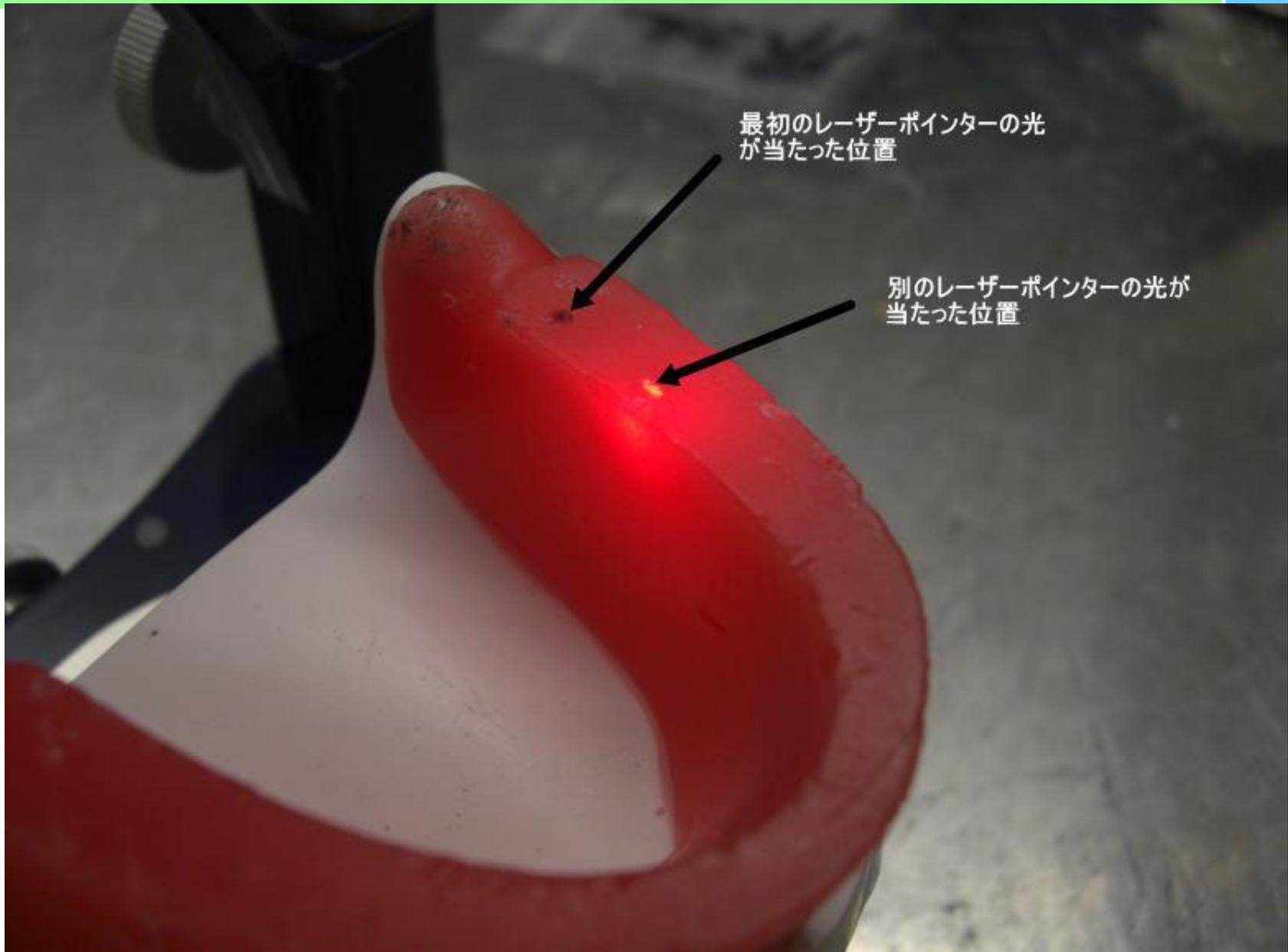
ロウ堤を乗せると、歯槽頂直上の位置が明示される



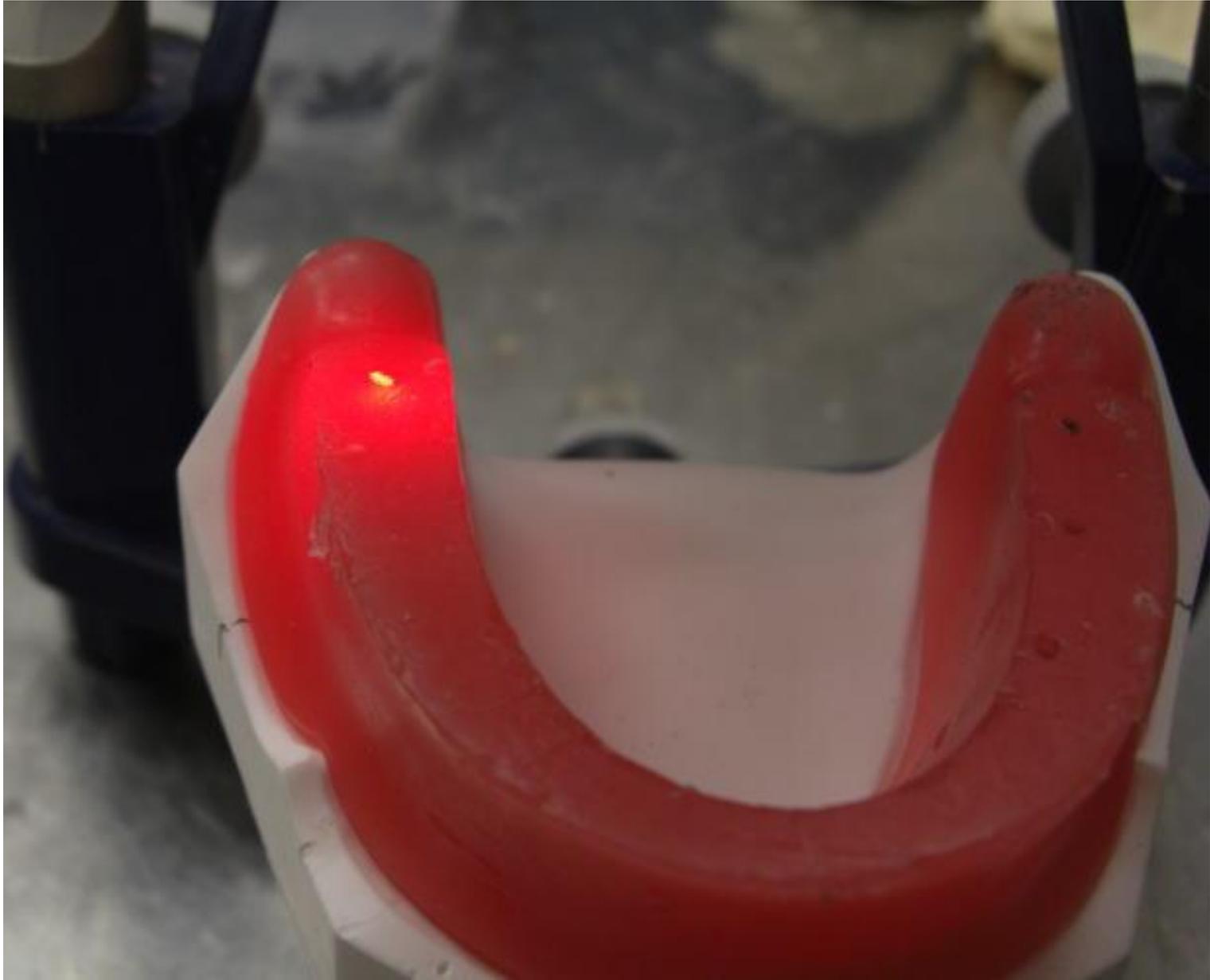
レーザーポインターの光の当たった位置に印を付ける



この操作を3~4カ所繰り返す



反対側でも同じ操作を3~4回繰り返す

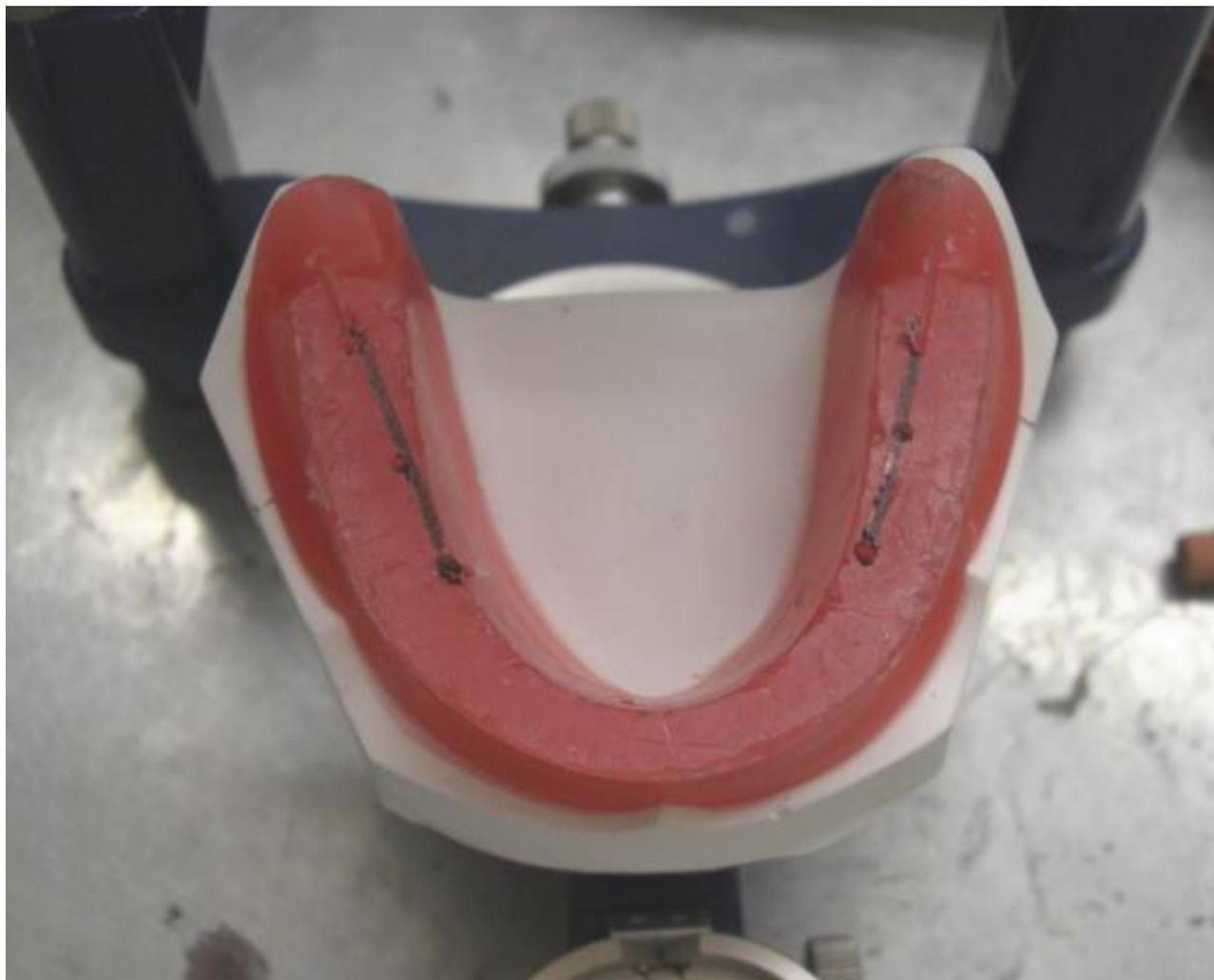


歯槽頂直上の位置がロウ提に印記された





印記された印を直線でつなぐ

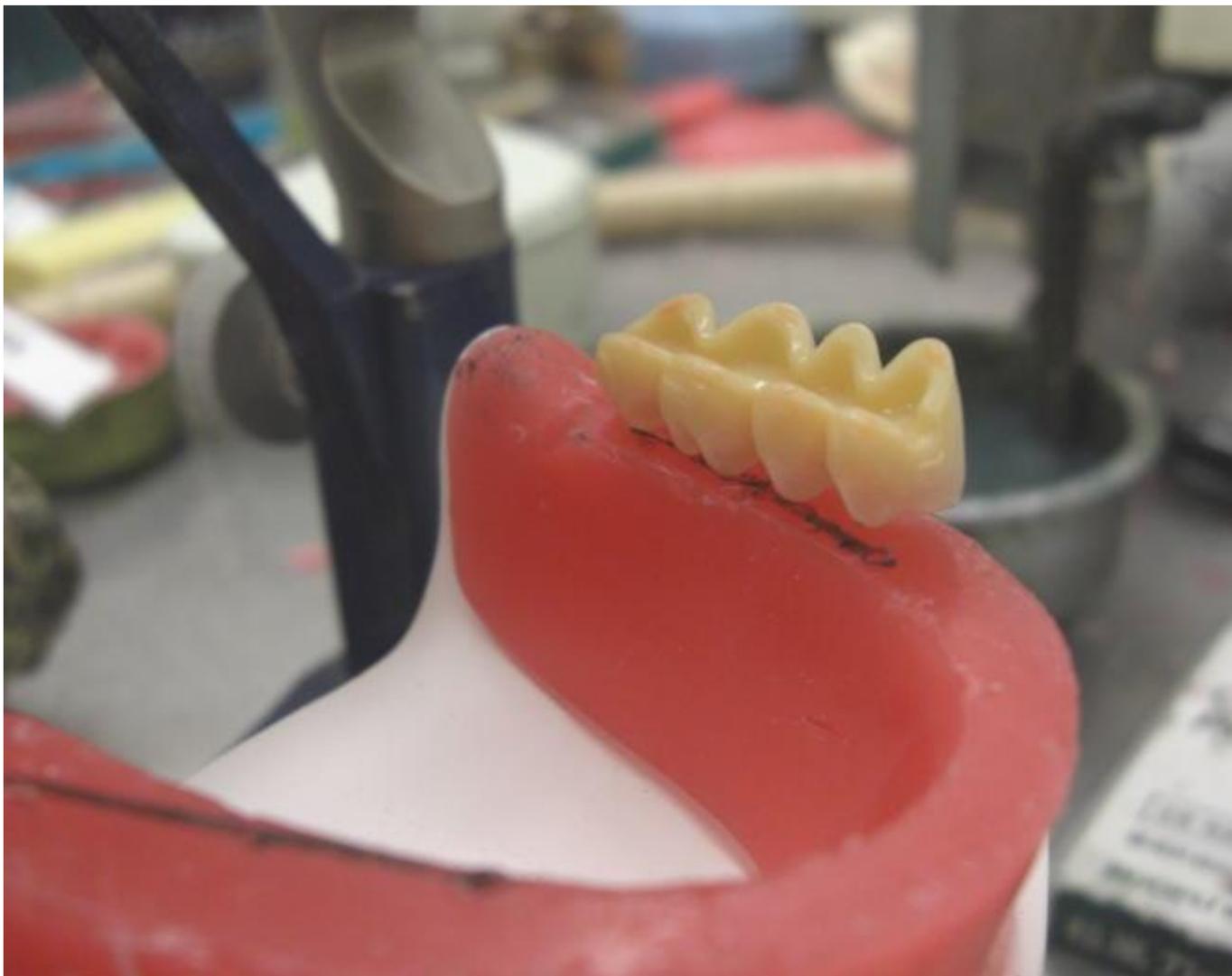


**この線上に、上顎の舌側咬頭が当たる。
この線は、下顎では中心窩を連ねたラインとなる。**

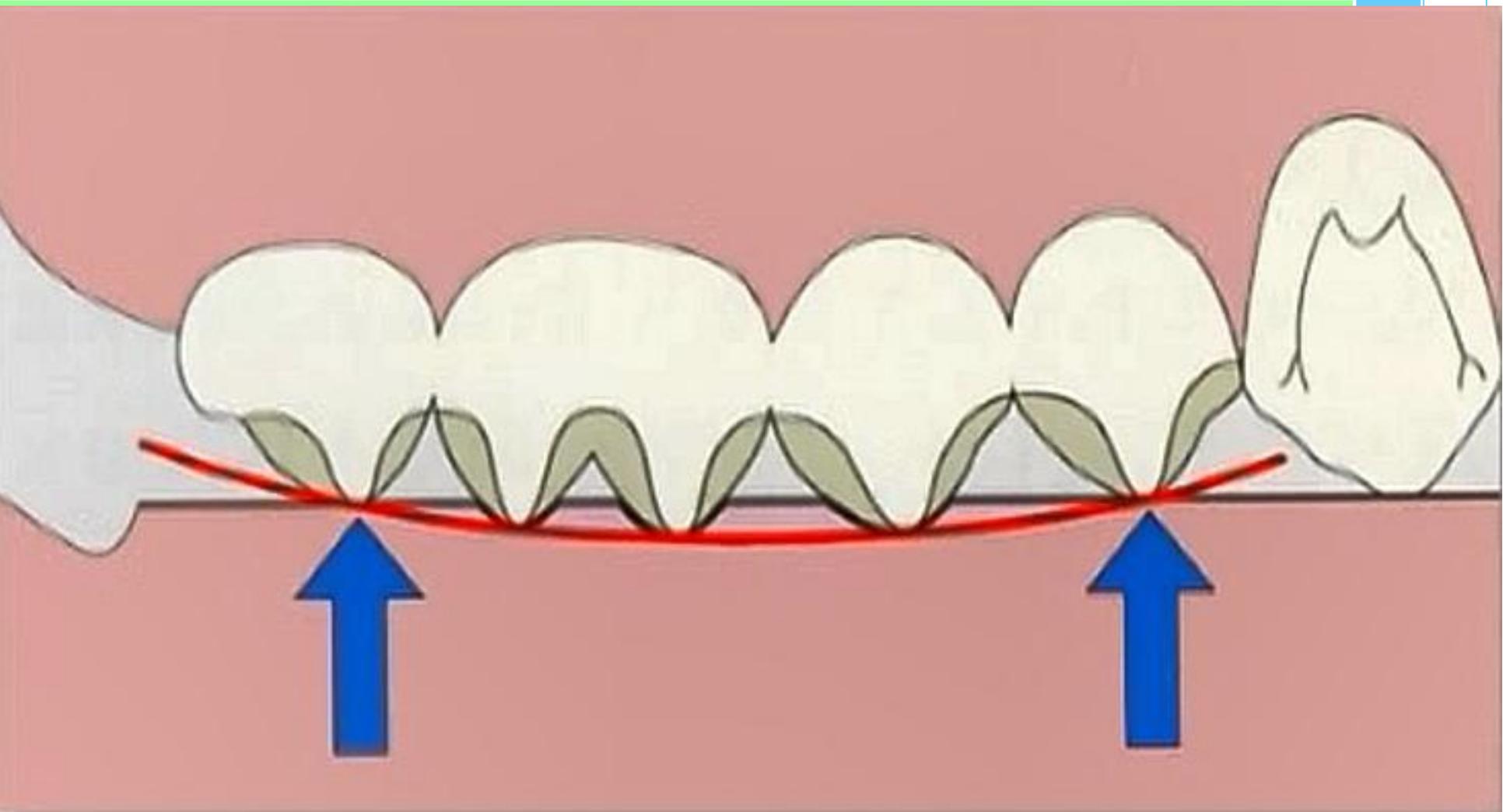
e-Ha II Qクワトロブレード (ヘレウス クルツァー ジャパン株式会社)



上顎臼歯を下顎口ウ提に乗せてみる



調節湾曲の都合で5番と6番の舌側咬頭はロウ提内に圧入する。

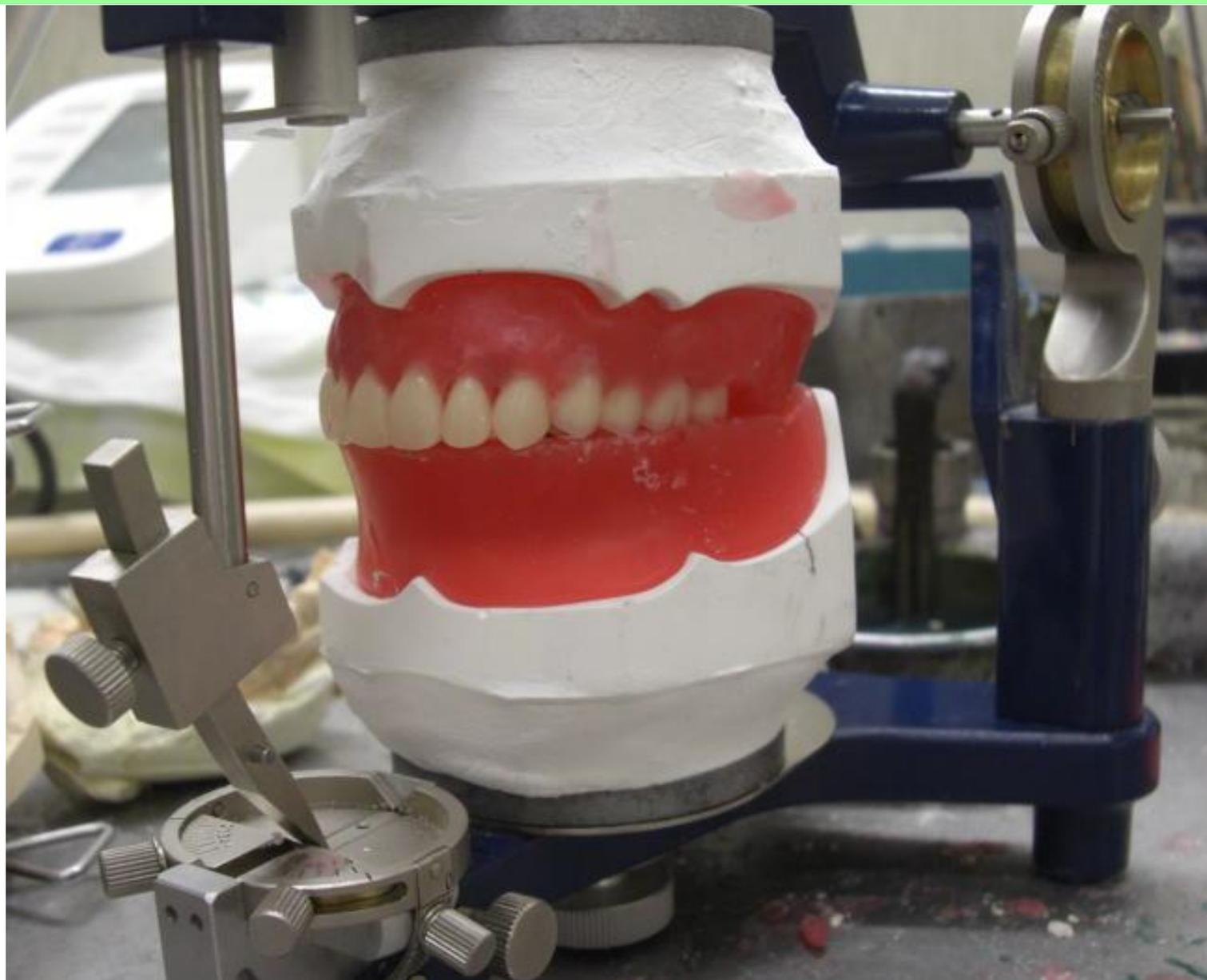


5番と6番の舌側咬頭が、下顎ロウ提内に圧入され、人工歯が所定の位置に保持されます。

上顎臼歯部を一度にロウ提に並べる。



左側臼歯が並んだ様子

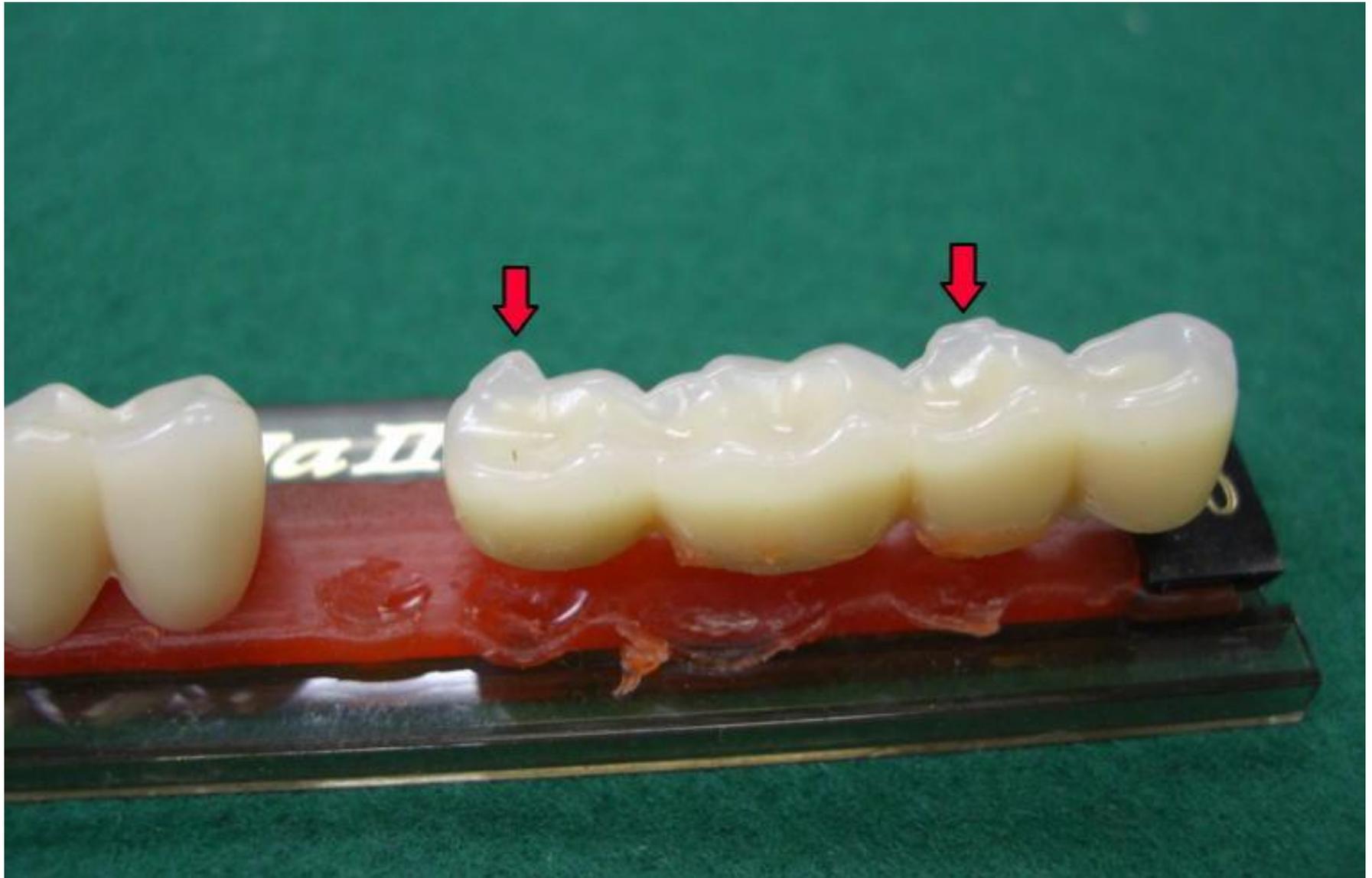


兩側上顎臼齒配列完了



下顎臼歯の人工歯配列開始

下顎に付与されたティースポジションナー





上下を逆さまにした様子



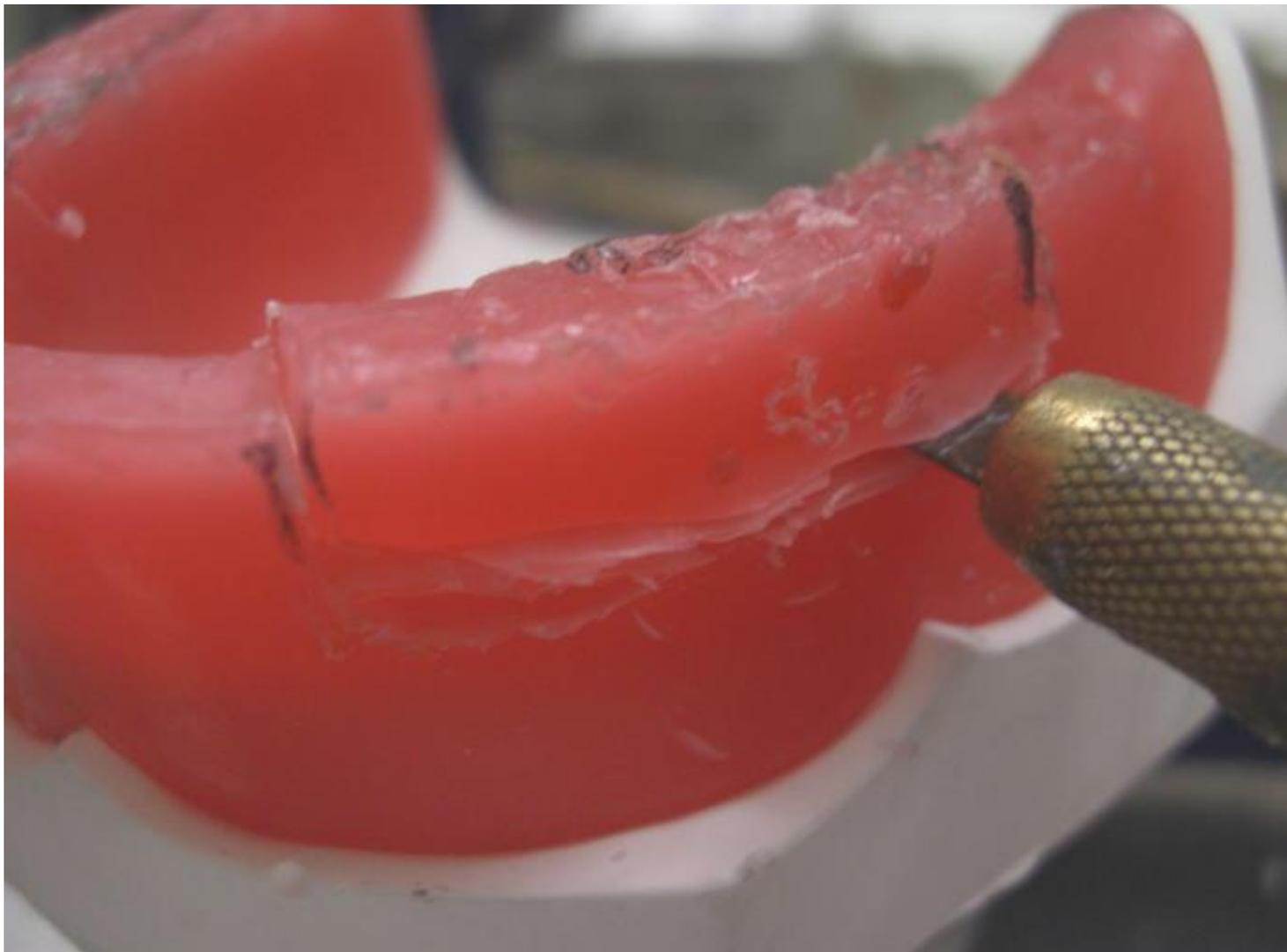
下顎の排列にあたり咬合器を倒位とし、ティースポジショナーにより下顎クワトロブレードを位置づけます。これによりリンガライズドオクルージョンの咬合構成と適正な滑走間隙の設定が容易に行えます。

下顎の人工歯が並ぶ位置を決定する。



ここが人工歯を並べる
最後方の位置

下顎人工歯が並ぶ位置のワックスを除去



下顎臼歯配列の際はワックスの除去量が多い

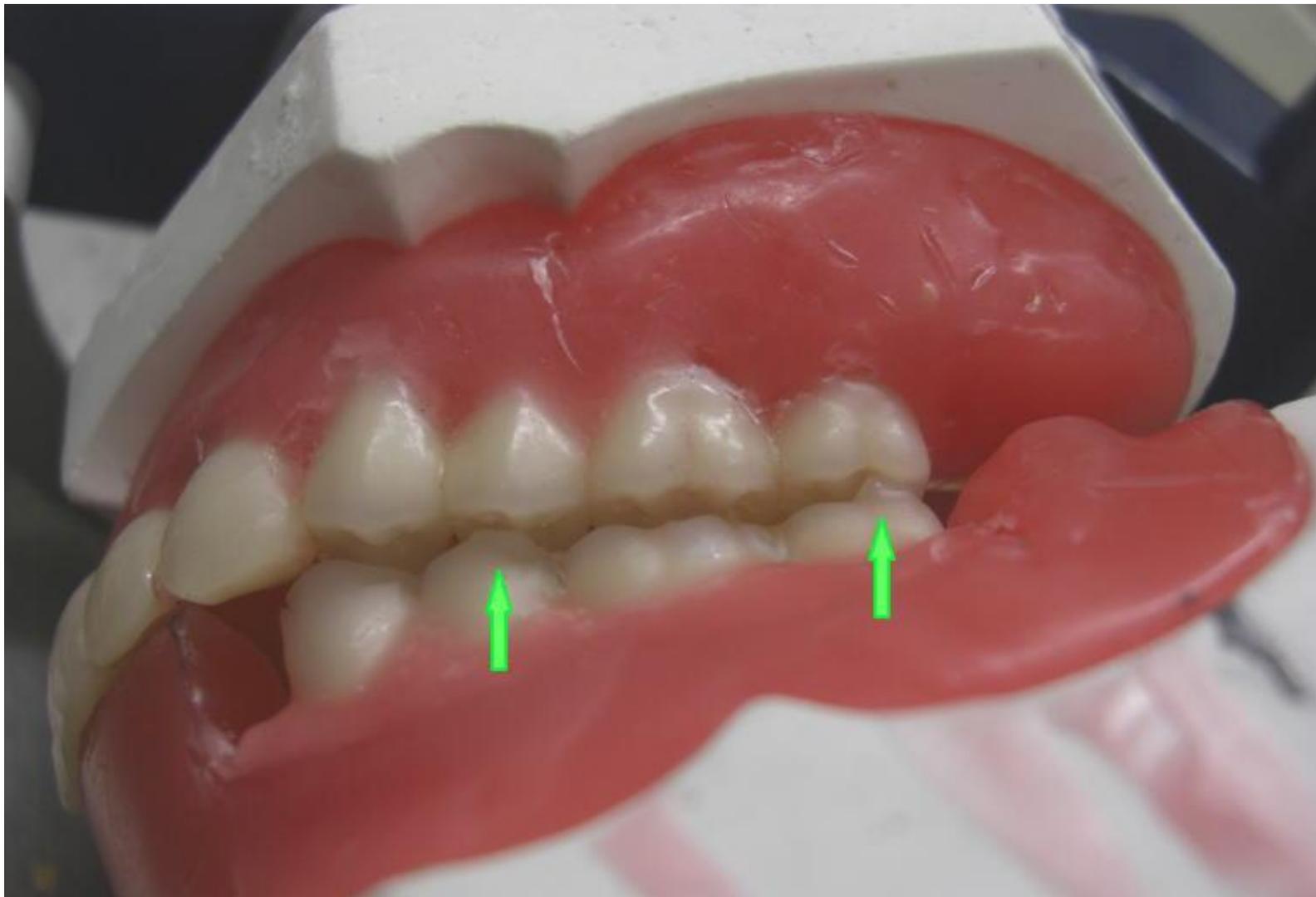


この状態でロウ提にワックスで固定する。





ティースポジションナーにより上顎頬側咬頭上がる



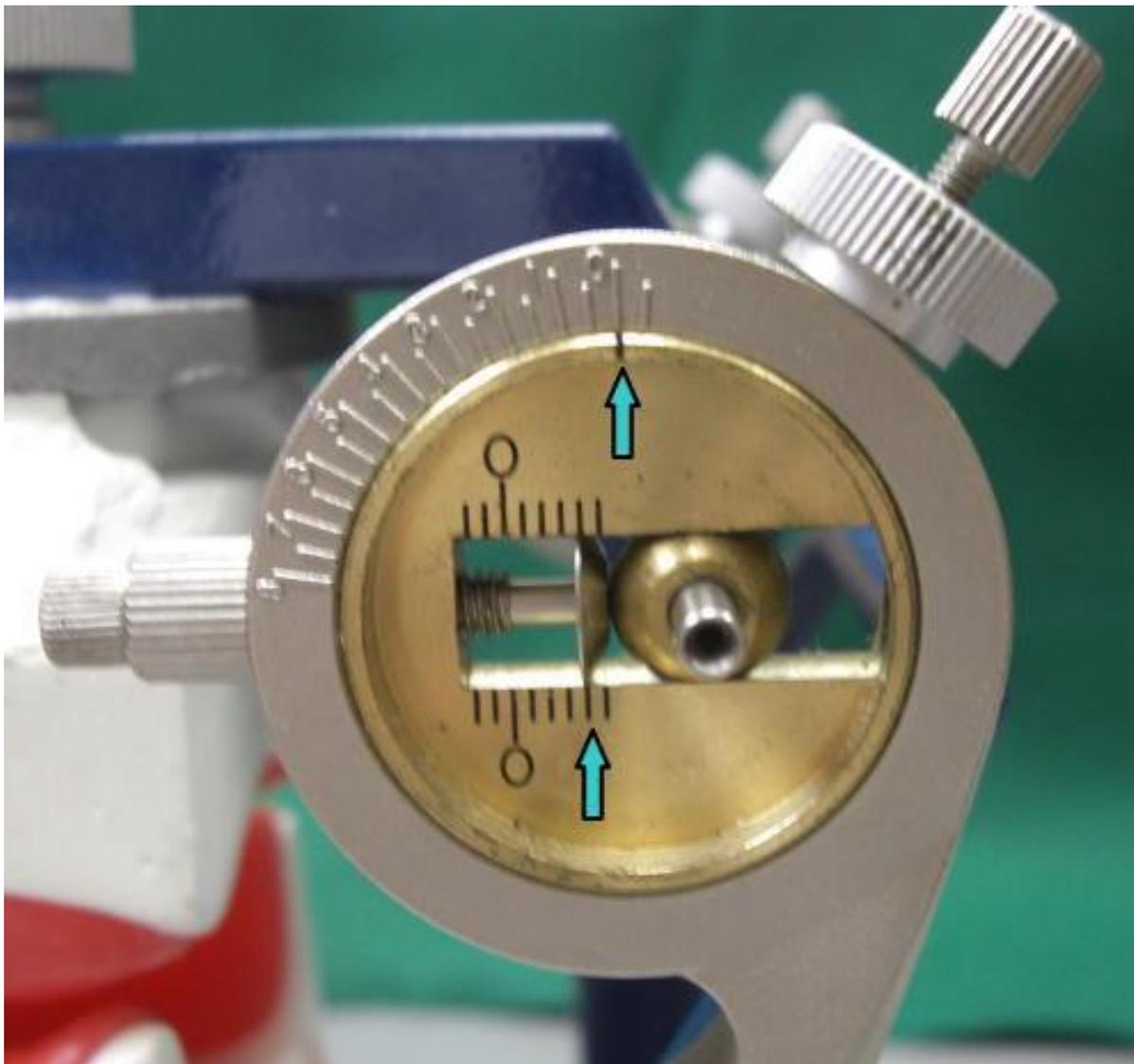
下顎両側臼歯の配列完了





次に前歯を配列するために、顎頭球を4mm下げる

この状態は、**下顎を4mm前方に移動**させた状態と同じ



スプリントの材料で厚み4mmに作製したコマ



ハノーの咬合器の場合



顎頭球は4mm後ろに下がり、下顎は相対的に4mm前方に移動する。

切歯部が浮き上がる



当然、切歯指導ピンも浮いている





この状態では、上顎6番の舌側咬頭のみ当たっている



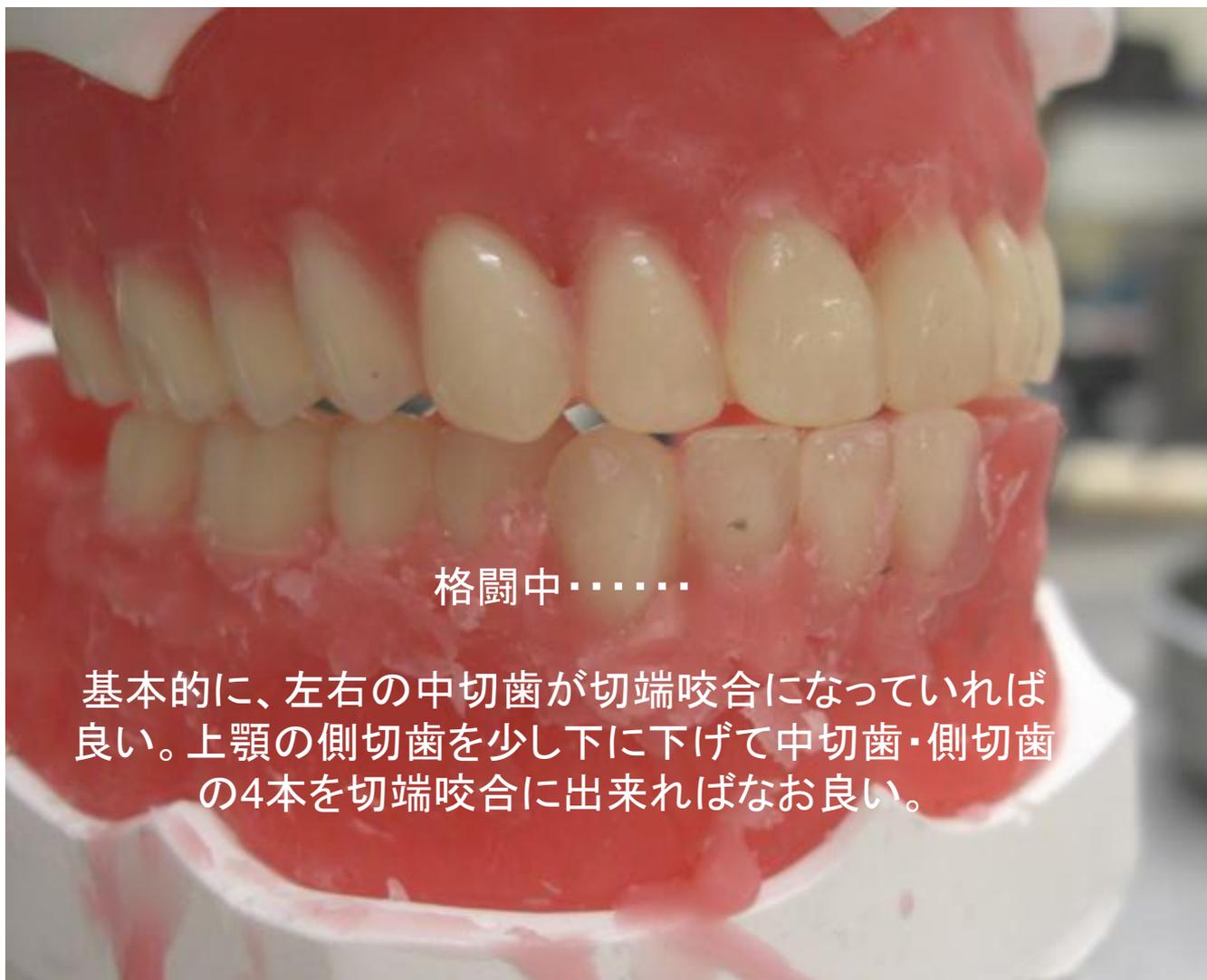


下顎前歯部の配列

- 前のスライドでは、臼歯のどこかが左右とも当たっている。
- 義歯の転覆を防ぐために、クリステンゼン現象に対抗出来る様に、この状態で前歯を切端咬合配列を行う。
- こうすると、前方で噛んだ時に両側臼歯と前歯の3カ所が当たり、両側性平衡咬合が得られるといいなと考える……のだが



前歯をこの状態で切端咬合で配列する



格闘中.....

基本的に、左右の中切歯が切端咬合になっていれば良い。上顎の側切歯を少し下に下げて中切歯・側切歯の4本を切端咬合に出来ればなお良い。

左右の中切歯が切端咬合で配列された。



正面から見た様子



顆頭球を元の状態に戻した時の配列の様子



バイトのチェック



上顎の当たり



下顎の当たり

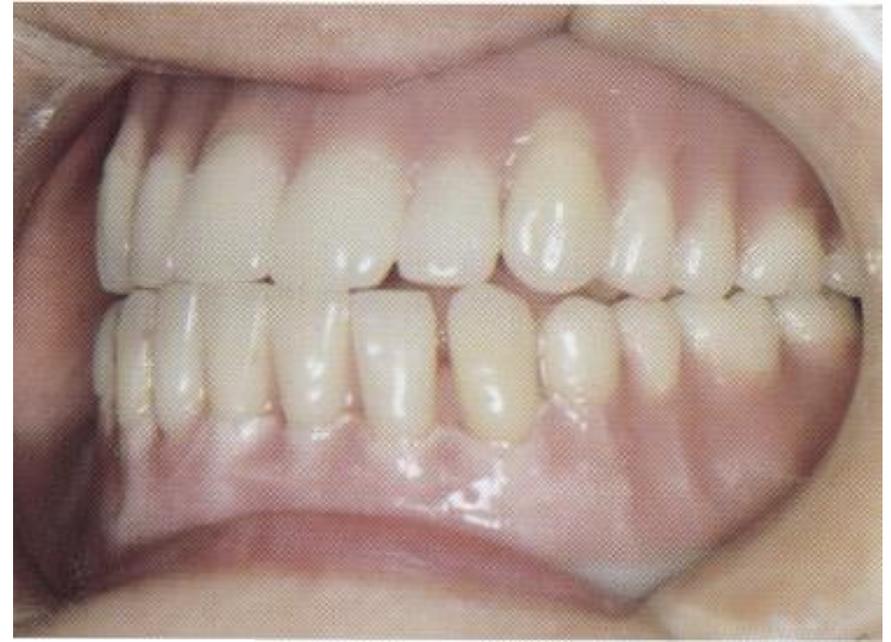


下顎前歯の切端咬合配列(平行法人工歯配列)



下顎を3～4mm前方に移動させた後に、下顎前歯を切端咬合になるように配列

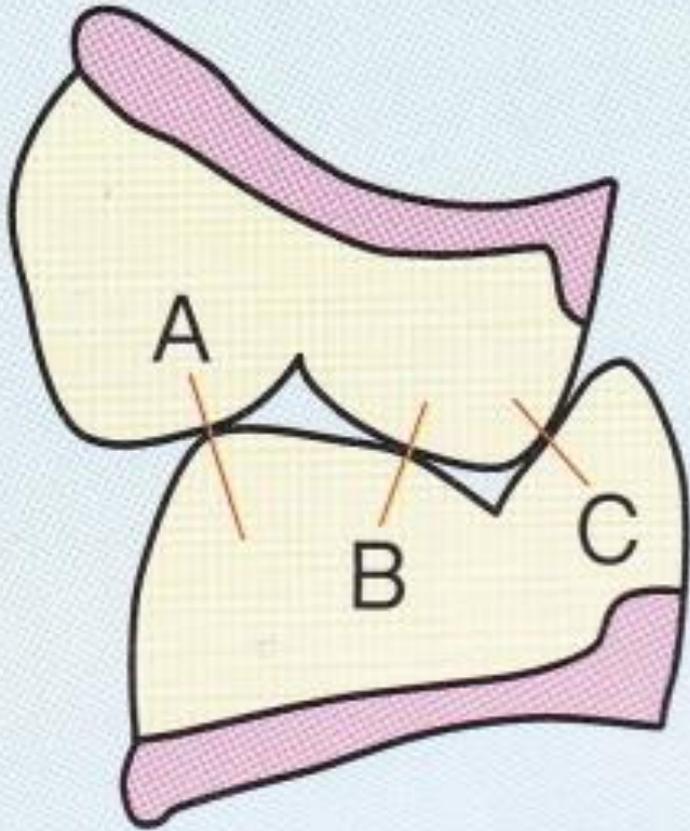
前歯で噛んだとき、左右臼歯のどこかが当たる



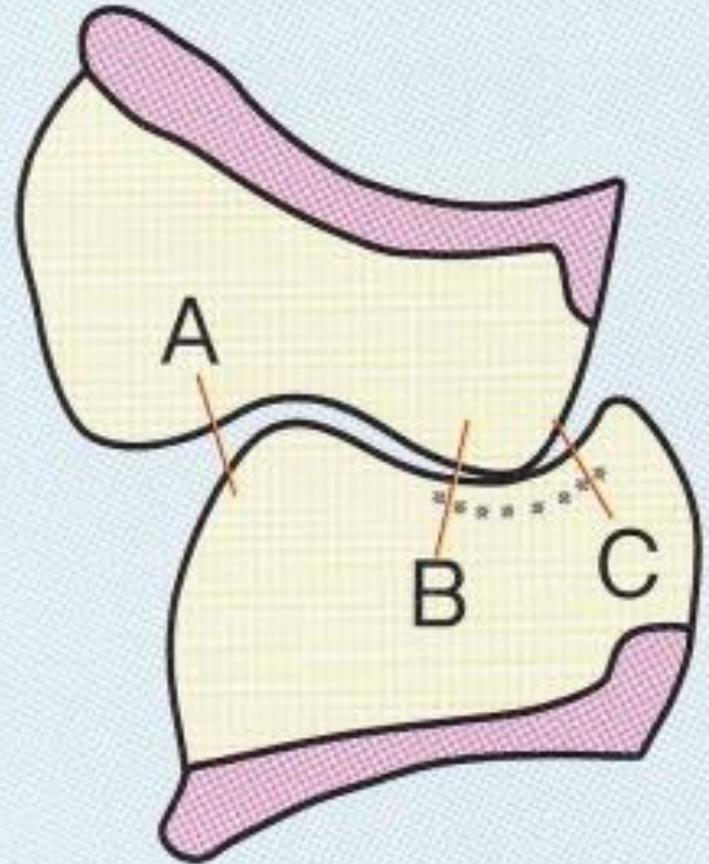
『これでいいのだ、総義歯づくり易しく優しい密着義歯の作り方』
大坪建夫著 第一歯科出版 より引用



上下の天然歯の咬合及び人工歯の当て方



天然歯の場合



デンチャーの場合



顎堤の変化と義歯の形

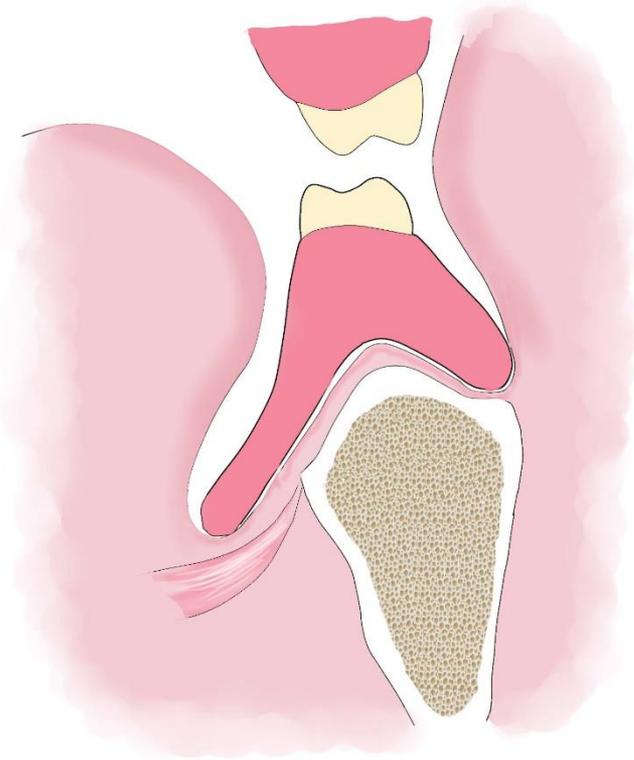


高度に吸収した顎堤

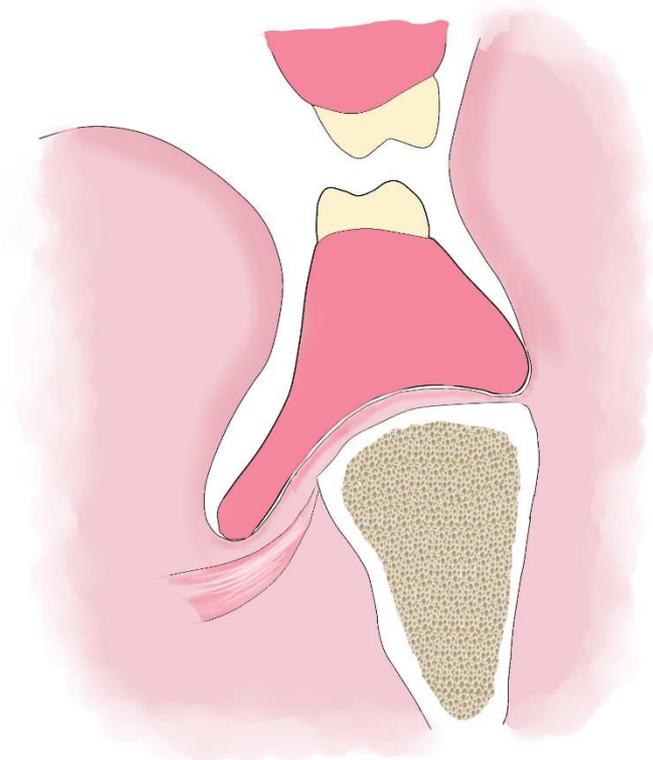
歯槽頂部はえぐれた様になり、目視では解剖学的指標を見分けるのがかなり困難となる。

丁寧な触診により、解剖学的指標を探つてゆく必要がある

顎堤の変化と義歯の形



隆々とした顎堤
(最近あまり見なくなった)

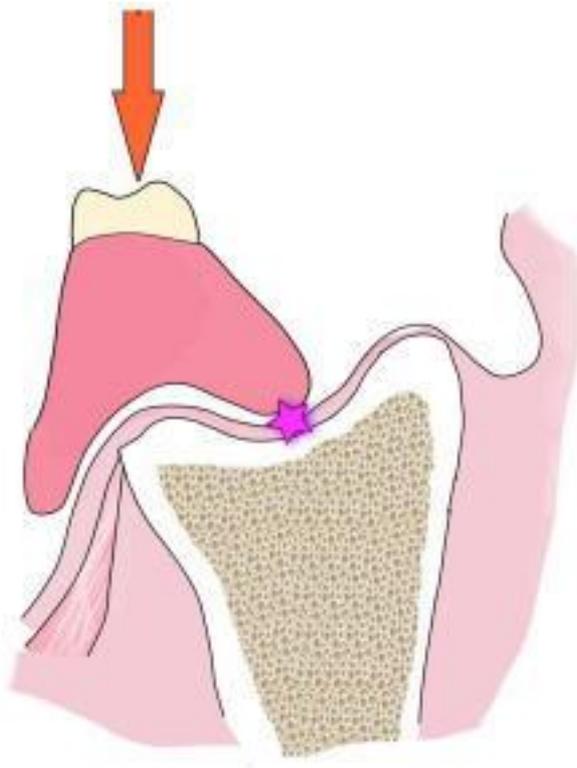


吸収の進んだ顎堤
目視では齒槽頂の確認ができない

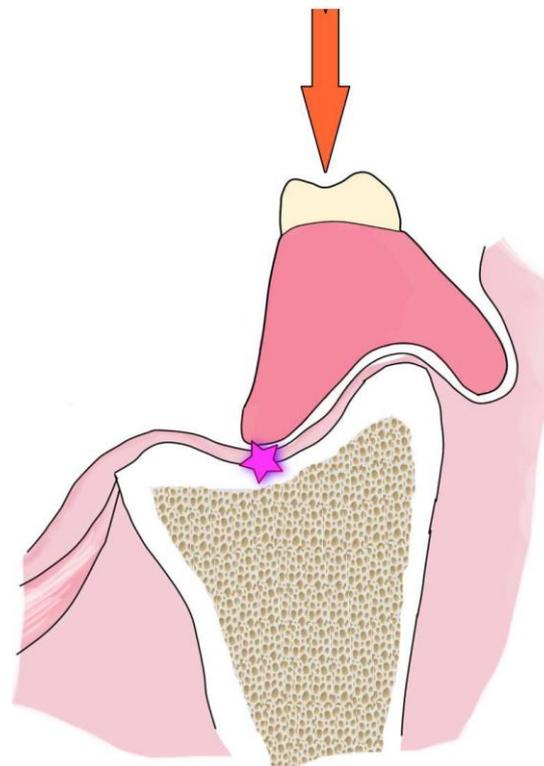


良くみかける義歯の設計ミス

舌側歯槽頂のフチと顎舌骨筋を歯槽頂に見立てた設計



頬棚の最外側部の盛り上がりを歯槽頂に見立てた設計



どちらの設計でも、患者さんは痛くて物を噛むことができない。

歯槽の吸収と義歯の概形

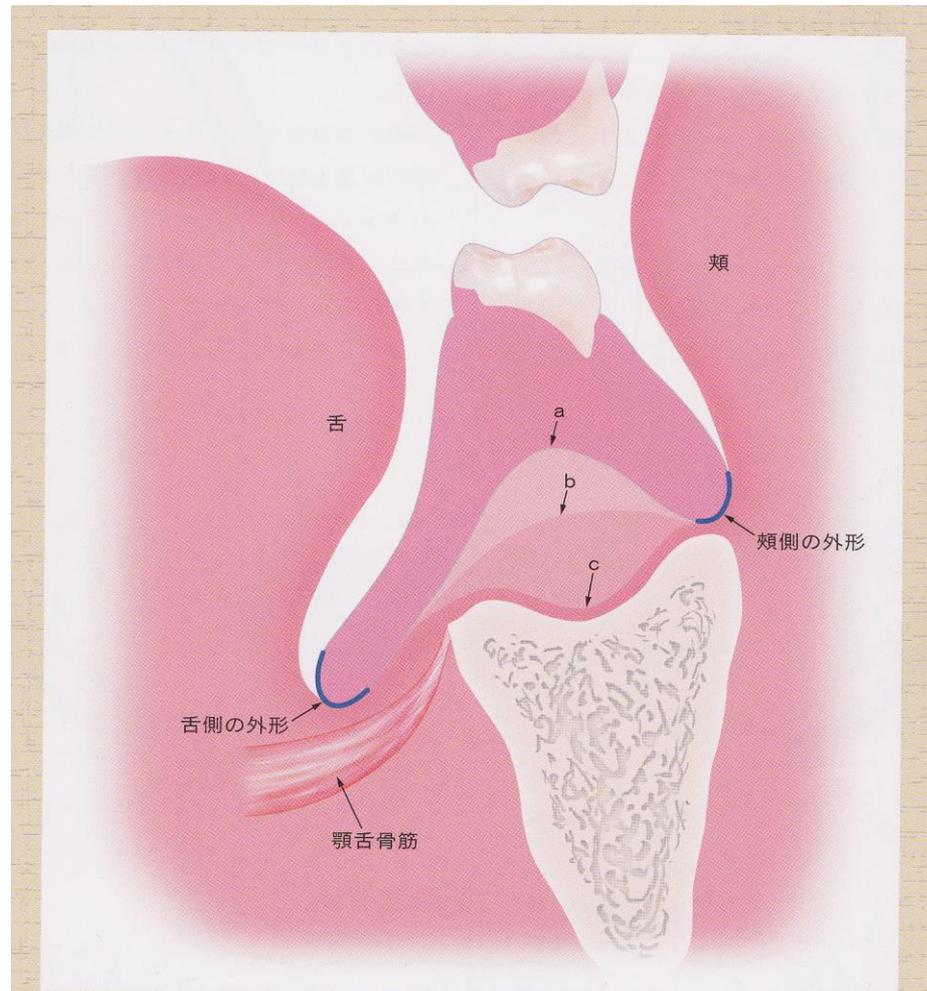


図 3-4 義歯床内面に覆われている顎骨の吸収程度が違うだけで、義歯周囲組織の解剖学的構造は同じ¹⁾。そのため頬、舌側の外形線の位置は変わらない。
 a：顎堤吸収が小さい場合。
 b：中程度の吸収の場合。
 c：吸収の大きい場合。



今からスマイルデンチャーシリコンC+を 作成予定の患者さんの口腔内写真



スタディモデルを作りました



一見して設計は簡単そうに見えます。





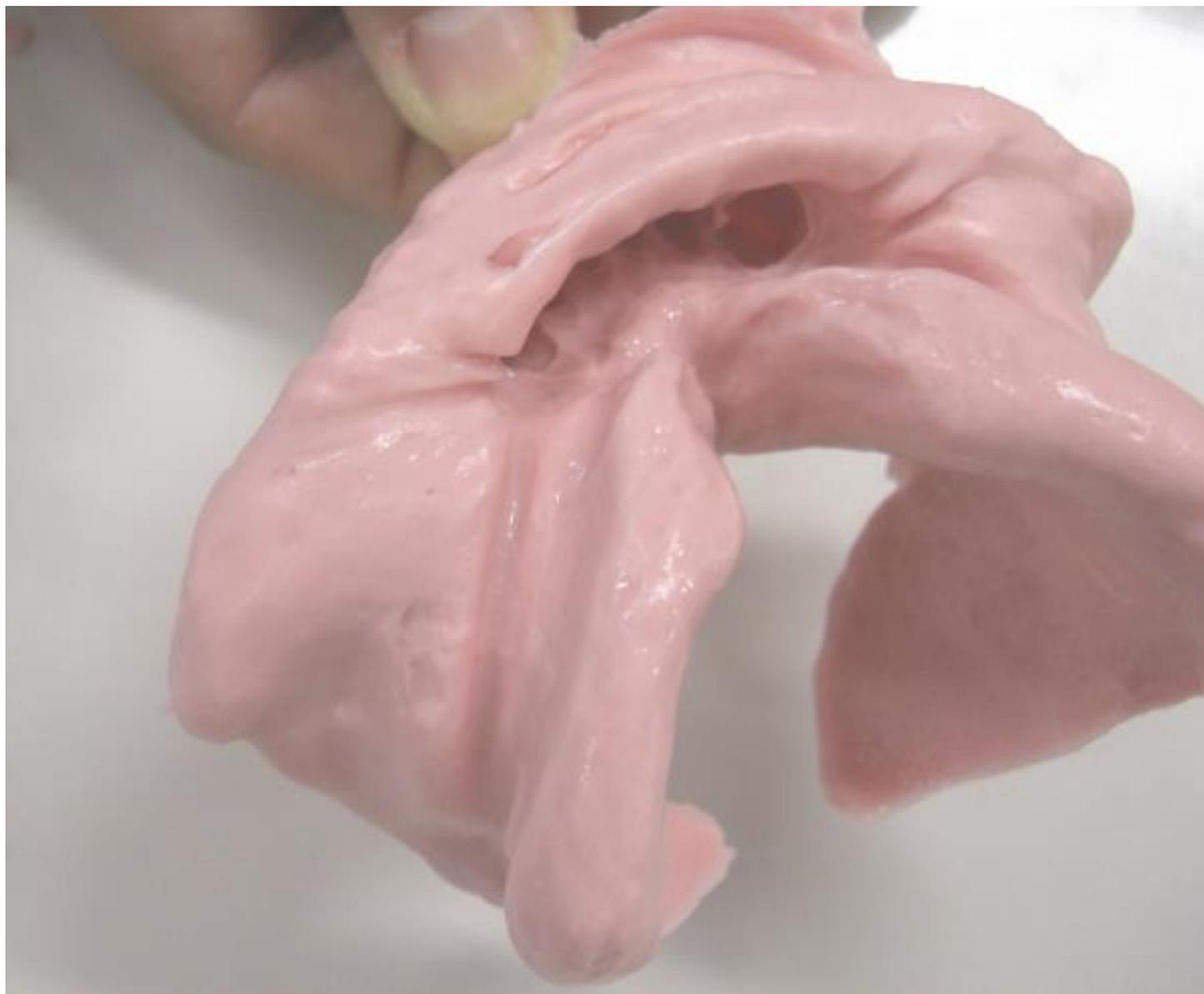
右側の臼歯欠損部です

ここにどんな落とし穴が潜んでいるのでしょうか？



患者さんの歯牙の欠損した部位を、いつも指で丁寧に触診される習慣のある先生には、だいたい検討がつく事と推察します。**真の歯槽頂**と**幻の歯槽頂**の違いが！

個人トレーにて印象採得を行った。



確かに歯槽最高部の外側に『くぼみ』がある



石膏模型を作製してみた



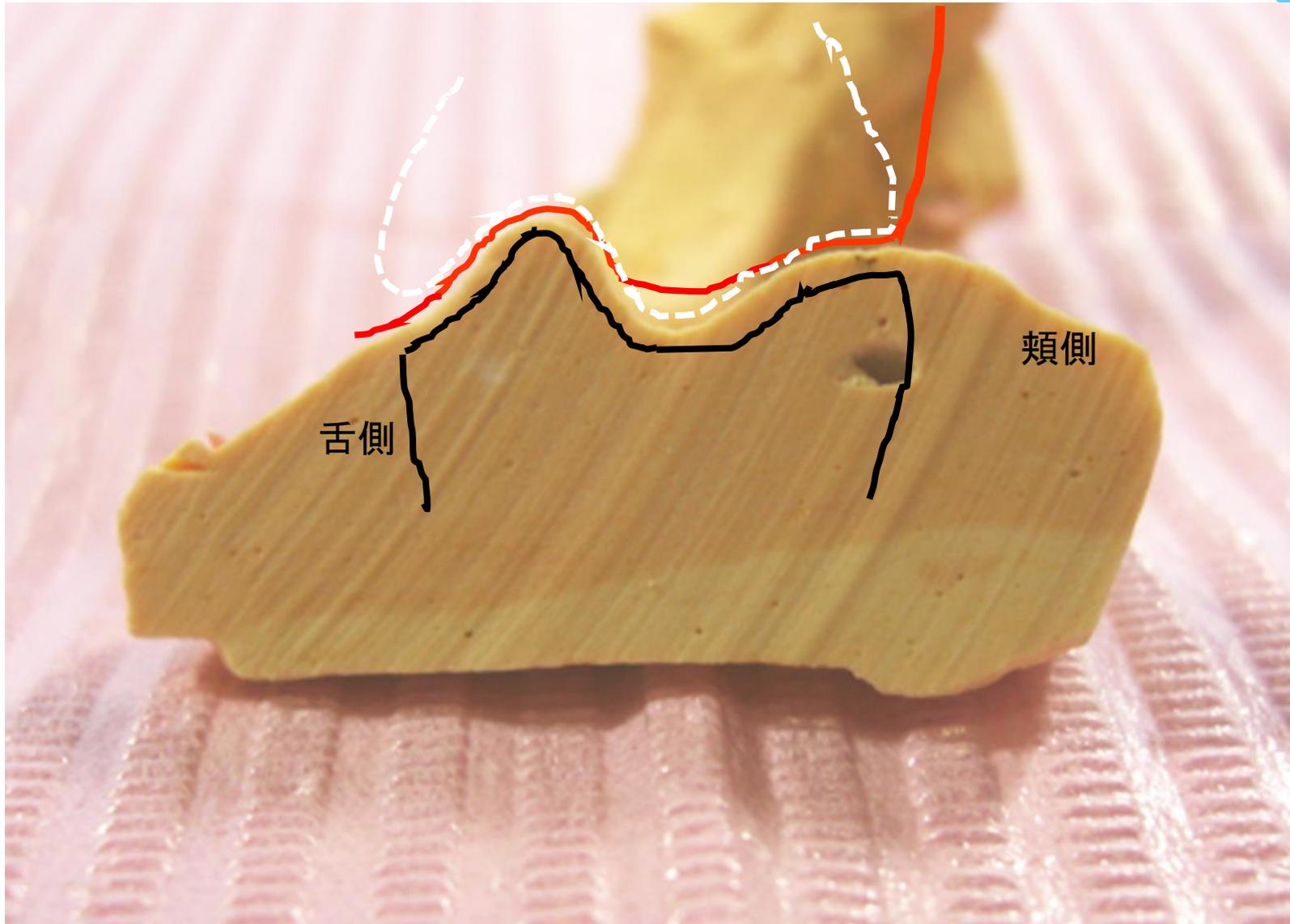


仮の概形線を引いてみる



何となく違和感がある……

予想される歯槽断面と義歯の概形線

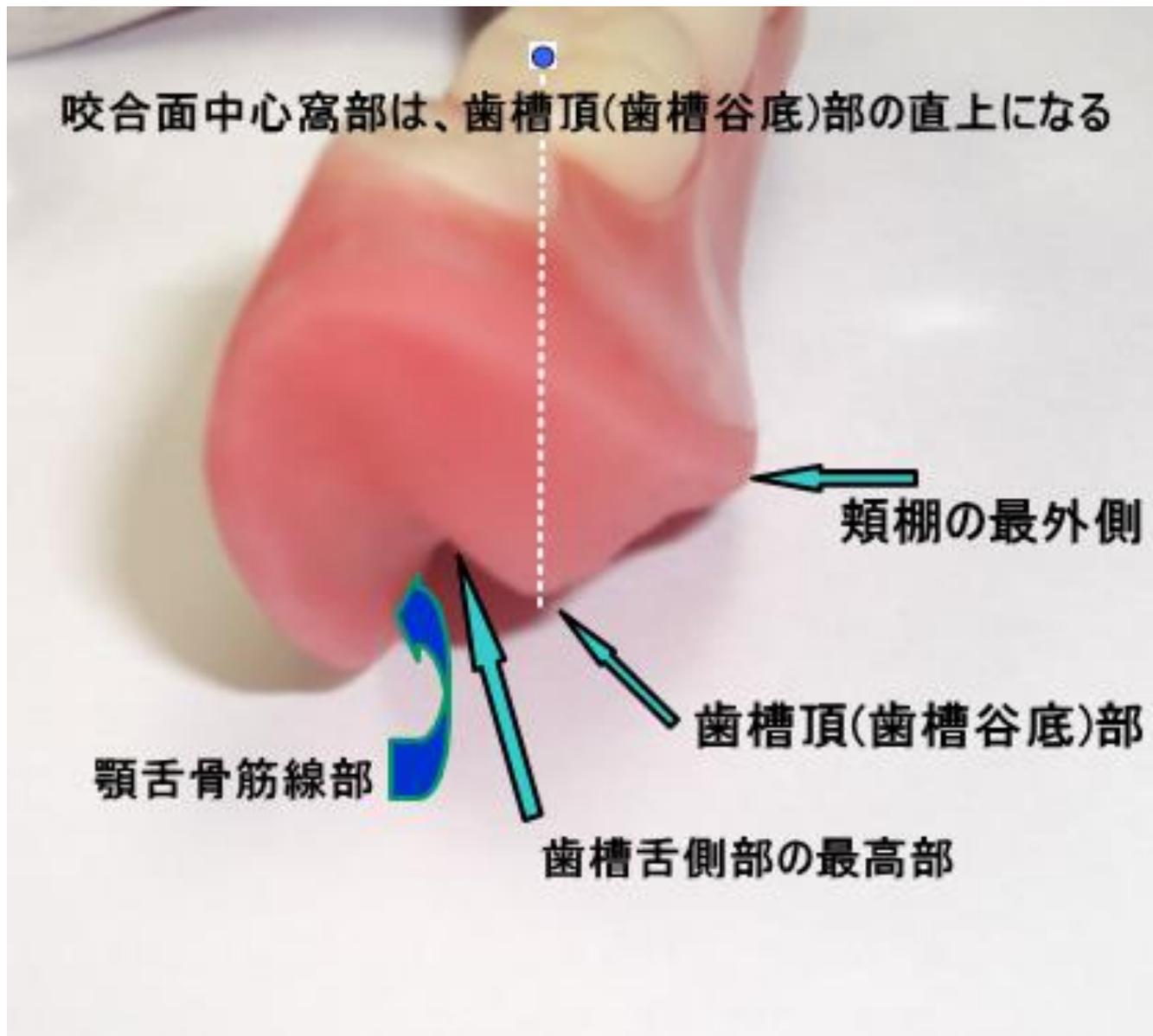


医院戻しされたスマイルデンチャーシリコンC+





歯槽頂と咬合面中心窩の位置関係





旧義歯粘膜面を印象して基礎床を作製する

- ① 旧義歯をティッシュコンデショナーを使って、粘膜面の荒れと適合を図る。
- ② この義歯を利用して、粘膜面を印象して基礎床を作製する。

最終的にはかなり適合性の良い下顎義歯が作製可能



硬化の遅いリライニング材も重宝する



亀水化学工業

動的リライニング材 ディル

義歯内面にインジェクションタイプのシリコン印象材を盛り上げる



シリコンパテに押し付ける



義歯の粘膜面の印象採得を行う



オストロンにて基礎床を作製する



オストロンを筆積み法にて印象面に盛ってゆく



患者さんに義歯を返し、一晩おいてから外す



翌日、印象から基礎床を取り出し、バリを除去





辺縁にパラフィンワックスが付かないように
気をつけてロウ提を作る





出来上がった咬合床



この咬合床で咬合採得を行い、人工歯配列・試適を行って問題ない場合には、ペリモールド・クラリベース等で基礎床を修正した後、シリコン印象材を使って最終の印象を行う。

最終印象終了時の状態





この方法の利点・欠点

- ① 下顎の基礎床縁内面がかなり正確に再現されるために、何故か咬合採得がかなり楽になる。
- ② 旧義歯と咬合を同じにする場合には、やはり『コピーデンチャー』の方が楽に出来る。

『欠点』

材料代が高価。

技工操作に少し手間がかかる。



何回咬合採得をやってても、試適が うまくゆかないケース

この、咬合採得が一番頭を悩ませるステップです。

患者さんはちゃんと自分にとって良い位置と思われる
位置でいつも咬んではくれません。

こうなったら、恥も外聞も捨てて、
思いついた方法を何でも試してみる

あまりお勧め出来るような方法ではありませんが、
知っておくと以外と役に立つ場面があると思います。



旧義歯を利用した姑息的な上下総義歯咬合採得

旧義歯とほぼ同じ咬合高径で義歯を作製する方法です。
患者さんの噛みたい位置で、噛んでもらい、これを患者さんに合った咬合状態と
考えて、咬合採得をすることを考えます。



この様な状態で患者さんの口腔内に戻す



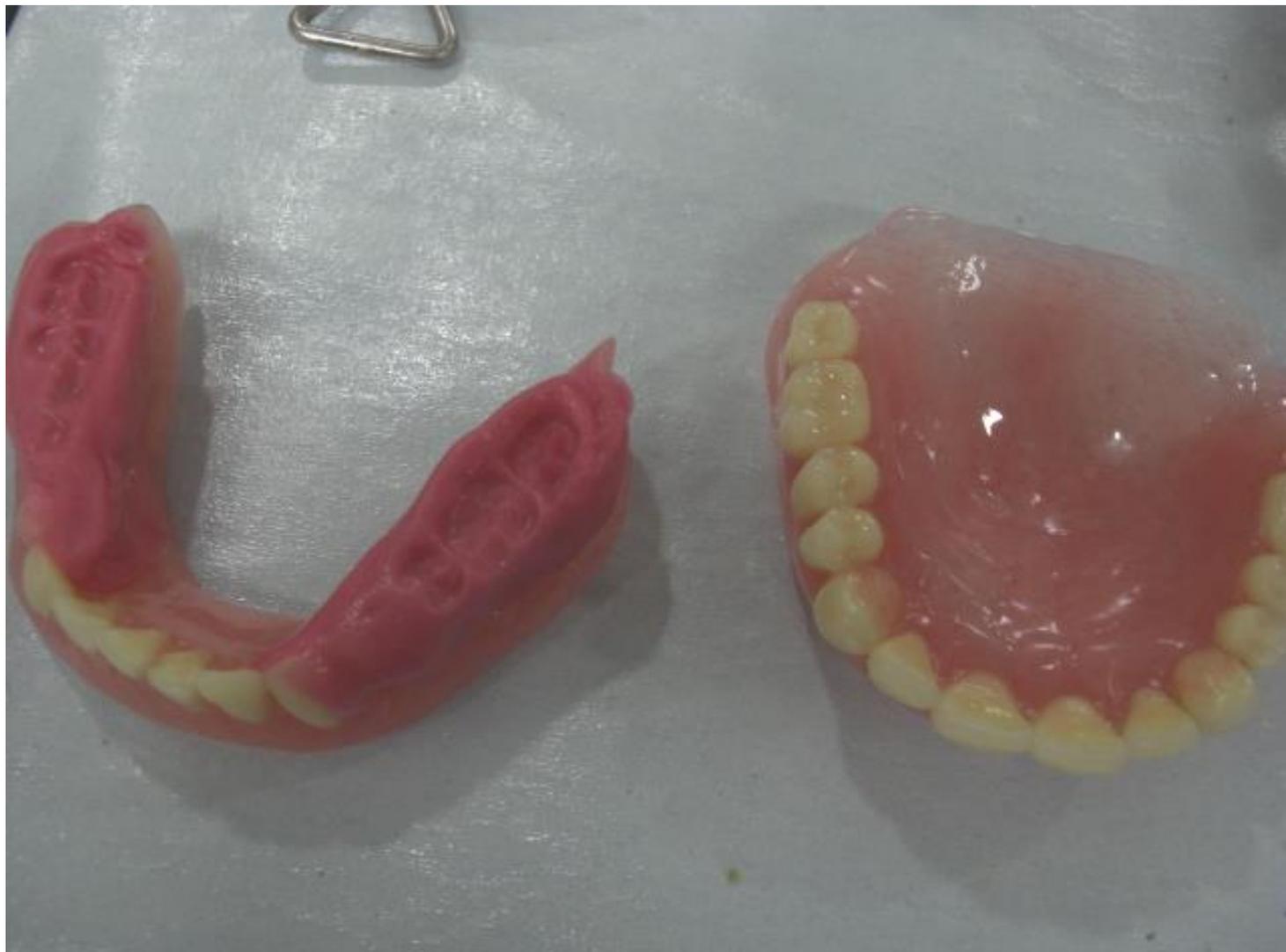
好きなように噛んでもらう。



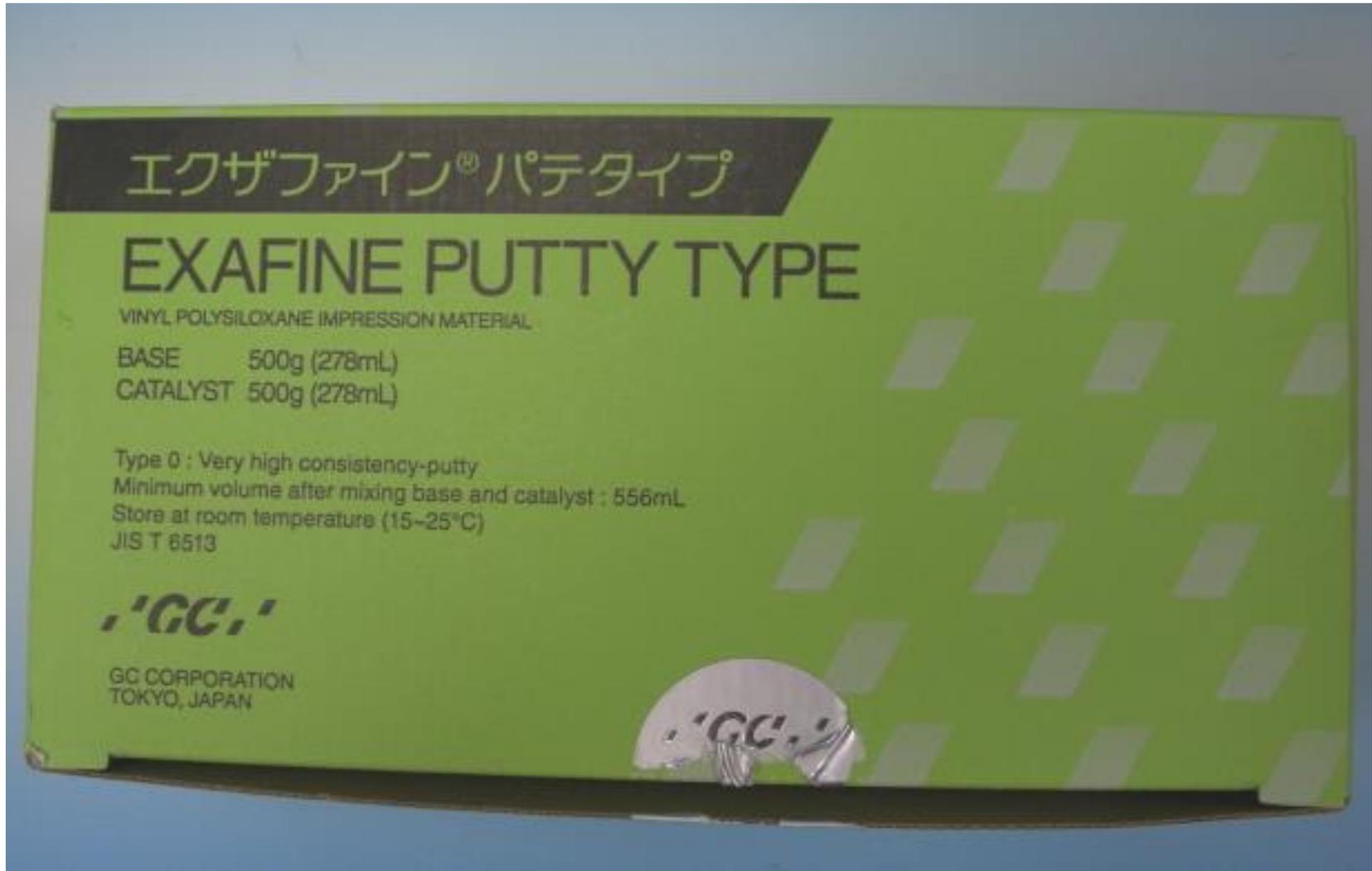
自分の一番好みの位置で噛んだ



外してみると、少しバイトが高くなったかな・・・？



パテタイプのシリコン印象材





ベースとキャタリストを計量スプーン3杯ずつ練和





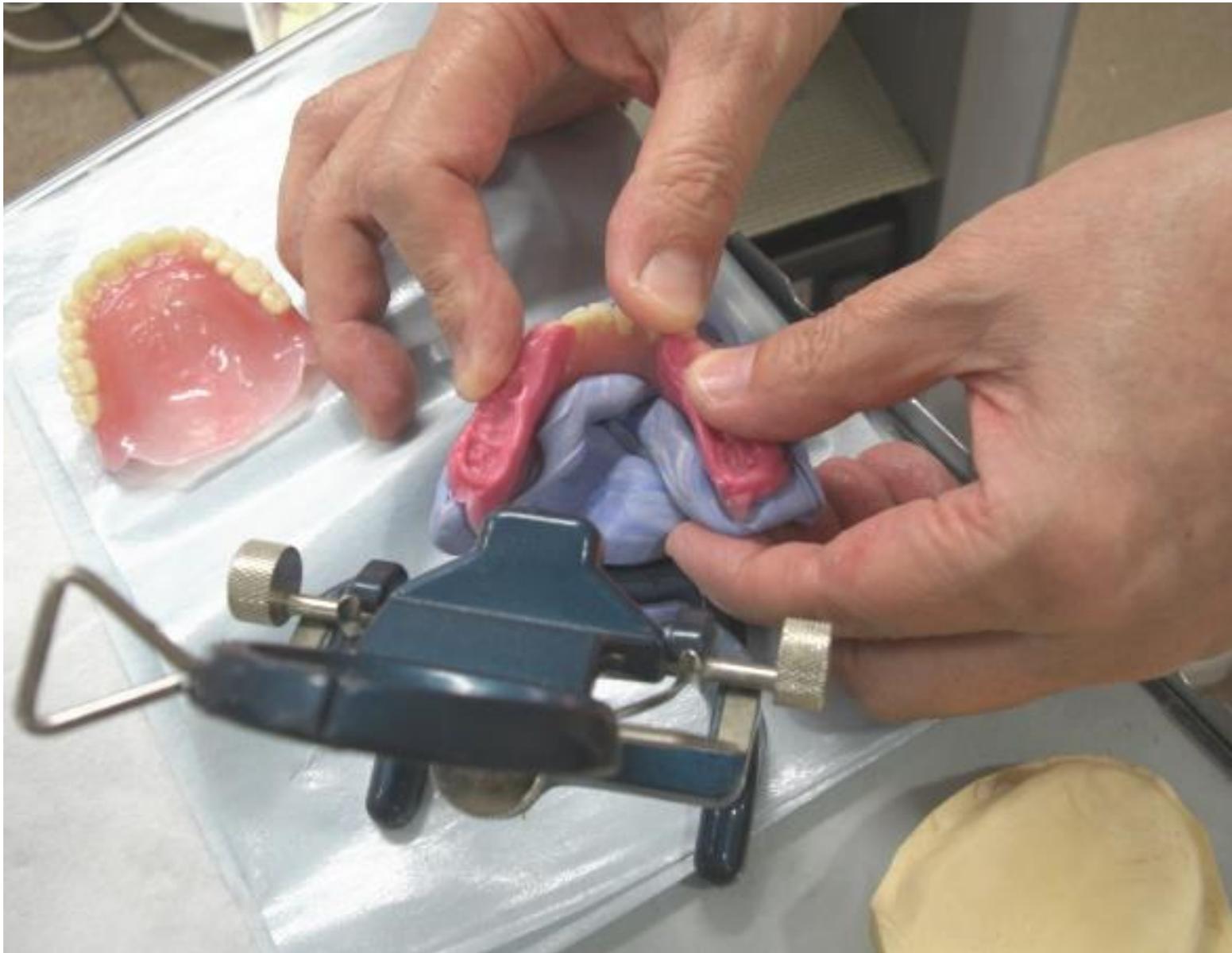
パテをまず旧義歯下顎の内面に満たす



残ったパテを適当な咬合器に付着する為の準備



内部にパテを満たした下顎旧義歯を咬合器付着



旧下顎義歯を咬合器付着した状態



同様に上顎内面もパテで満たす



下顎と同様に採得したバイトで咬合器に付着





パテの不足部分はシリコン印象材で補う



先ほどの咬合器で採得したバイトを開ける



旧義歯を外し患者さんに返す





おおまかな基礎床をパテ型に試適してみる



上顎の基礎床にロウ提を付ける





同様に下顎の基礎床にもロウ提を付ける



上下の口ウ提の咬合面を軟化させる



そのまま、咬合器を閉じる



上下の口脣周囲をしっかりと軟化して固定する。



旧義歯の咬合状態が**とりあえず再現**出来たと考えて、この口脣を使って咬合器付着をおこない、再び人工歯配列をやり直す。



これで、結構うまくゆく症例もかなり多い。
思いついた事は何でもやってみる。



咬合調整はただ削合するだけか・・・？



当たりの弱い部分に追加してみよう



現在は『フルオロボンドⅡ (松風)』という名称で「ボンディング材」が象牙質接着剤と同梱で発売されている。



前装冠に使用する硬質レジンを準備する



硬質レジン追加の前処理



当たりの弱い部分をペーパーコーン等で少し粗造にする。
G-プレミオボンドを塗布し機銃乾燥させる。

光照射を10秒程度おこなう





硬質レジンを当該歯牙の上に盛り上げる



患者さんの口腔内に入れてタッピングをしてもらう その後、口腔内から取り出す



ソリデックス(硬質レジン)
を追加した部分

直ぐに光照射を行って硬化させる

何とか上顎と当たりり咬合状態が改善された





通常の咬合調整では見つからない当たり



シリコン裏装義歯の安定状態(最終目標?)





総義歯の患者さんはどう物を嚙んでいるか？

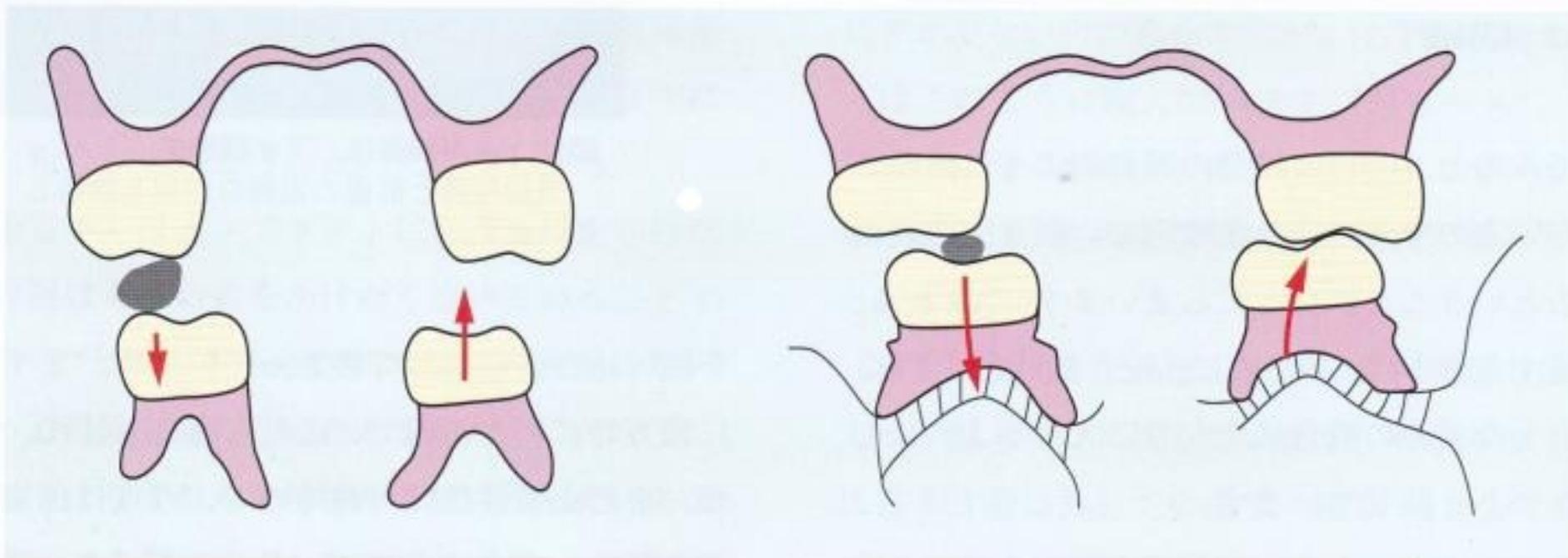


図14 偏心時は、食塊が介在しているときは片側性平衡咬合で、終末位で両側性平衡咬合になる。実際は、平衡側はデンチャーが少し浮いて当たっている。

研磨について(通常義歯・スマイルデンチャー)



- 研磨に関する考え方は、義歯は全て同じ
- 形態修正・粗研磨・中間研磨・仕上げ研磨・艶出しを行うが、スマイルデンチャーの場合には、各工程でほんの少しだけ注意事項を守る必要がある
- **スマイルデンチャーの研磨**においては100点の研磨を求めず、いつも**60点の研磨**を心がける

医院戻されたスマイルデンチャーの艶は、
なかなか再現できない。

スマイルデンチャーの研磨の場合には 切削・研磨は回転数が分かるハンドエンジンを使用



削除・研磨くずが飛散しないようにする装置

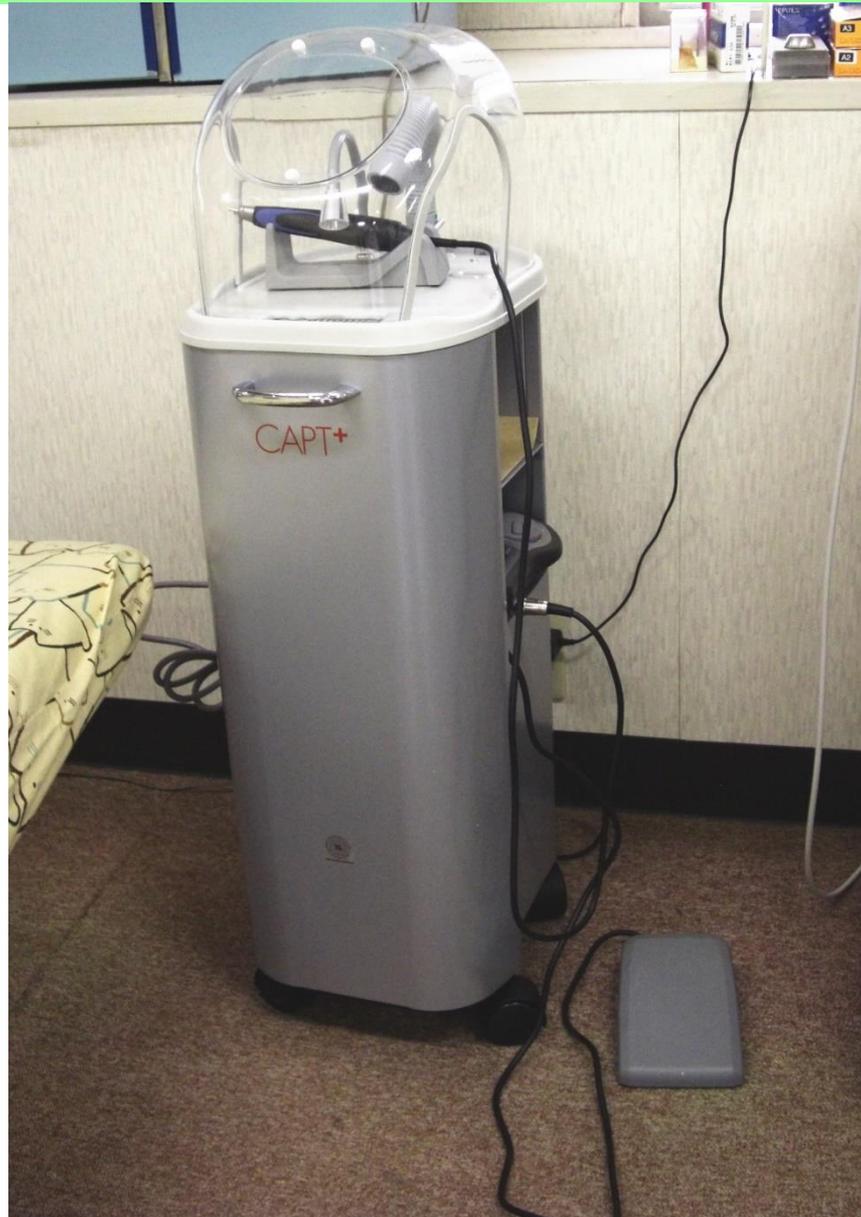


キャプトプラス (東京技研)

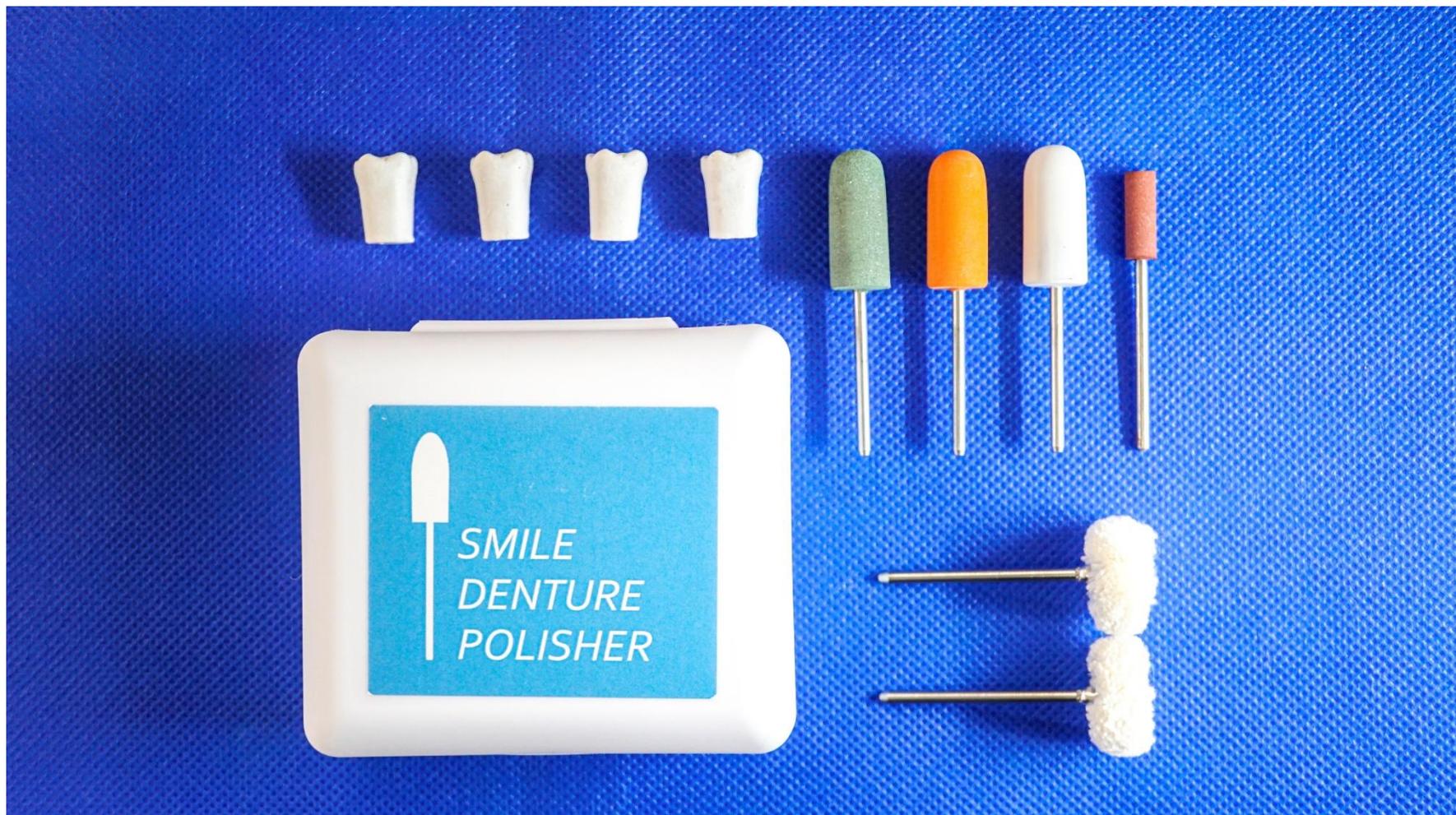
【 FEED販売同類品 】

NEWクリンテクトCT-1 (ルーペレス仕様) 787-8008 125,664円(税込み価格)

セットで購入した状態



スマイルデンチャーの研磨セット





技工用カーバイトバー(形態修正用)



【FEED 注文番号】

技工用カーバイトバー(三角)1本	333-0431	2,854円(税込3,129円)
技工用カーバイトバー(丸)1本	820-2613	3,235円(税込3,558円)

SAポイント(粗研磨用)



【FEED 注文番号】

SAポイント (秋山産業) 3本入り 668-5003 1,640円(税込1,804円)

中間研磨・仕上げ研磨用ビッグシリコンポイント



【FEED 注文番号】

- | | | | |
|------------------|------|----------|------------------|
| 松風ビッグシリコンポイント(茶) | 6本入り | 333-1477 | 1,665円(税込1,831円) |
| 松風ビッグシリコンポイント(白) | 6本入り | 333-5607 | 1,665円(税込1,831円) |

艶出し用バフ ブレイジングコットン(ヤーン)



アクリルマーベルを付けて、艶出しをする。

【FEED 注文番号】

ブレイジングコットン(ヤーン) 12本入り 787-0909 650円(税込715円)



小型犬にかじられたスマイルデンチャー



スマイルデンチャーを研磨してみる



研磨の様子

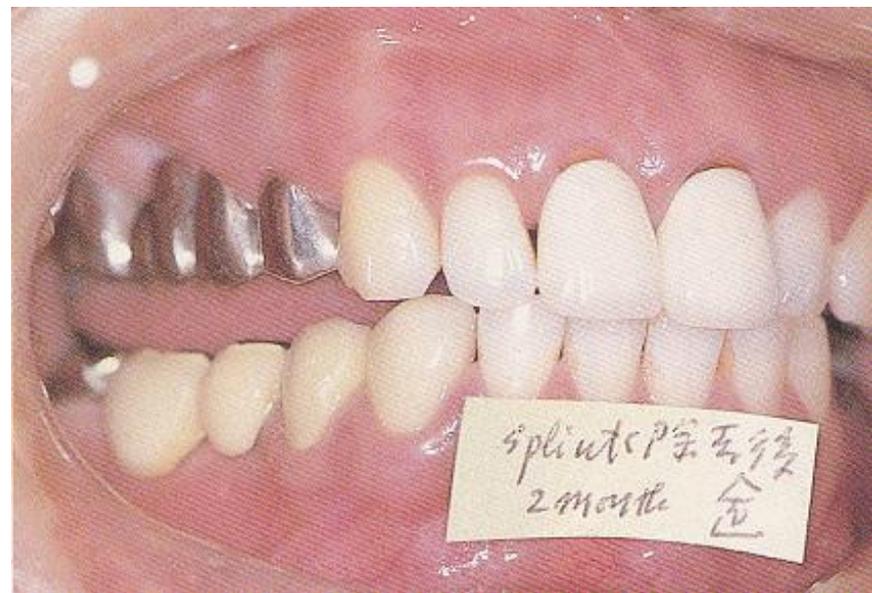




顎関節症で後上方に偏位した 下顎を前下方へと誘導



後上方偏位した下顎



前下方に誘導された下顎

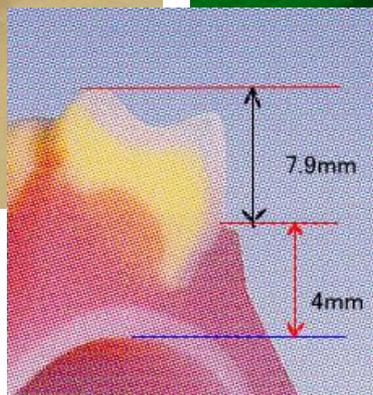
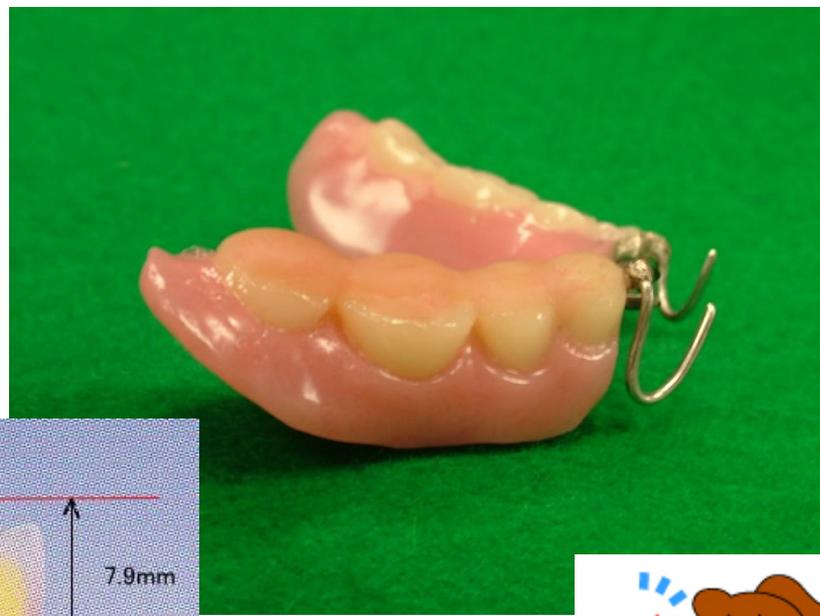


義歯低位咬合に対する具体的な咬合挙上法

(義歯作製前の予備治療)

低位咬合の義歯

咬合面に**ある基準**をもうけ、
これに全体を合わせる。



約12mm



まず、左右の6番に即重レジンを少し載せて硬化させる



レジンを盛り上げた後、お湯の中をくぐらせ、口腔内に装着して咬んでもらう。最も強く当たる部分にエンピツで印をつける。

この状態で、エンピツで印を付けた部分を削合してしまわないように、咬合面の形態を整えてゆく



理想的な高さになるまで、週に1回のペースで咬合を挙上してゆく

初診時の咬合状態



前歯の被蓋が深い



咬合拳上終了時の様子



前歯部の深い状態が改善され、咀嚼効率もかなり良くなった。

拳上終了時の右側観



拳上終了後の左側観



挙上終了時の義歯裏面





素晴らしい別症例

下顎の義歯



下顎の芸術的な『柱』 美しい造形美を感じさせる



上顎の義歯



補正の結果臼歯部分に『柱』が4本立ってしまった。

咬合補正した義歯



左側面觀





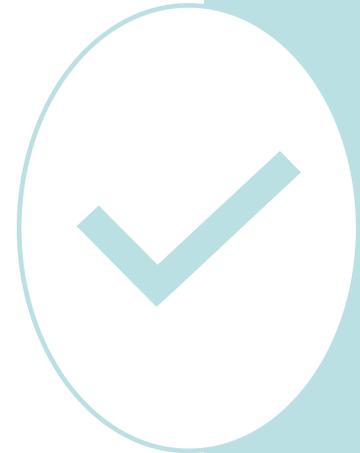
咬合平面の設定は問題ない



ただ、最終義歯の調整の仕方がまずかったか？

咬合を補正する事の利点

- ① 最大咬合力が出る、咬合平面を作り上げる。
- ② 口腔周囲の顔貌が整い、若々しい口元になる。
- ③ 咀嚼効率の良いスマイルデンチャーシリーズができあがる。



ただ、このステップには、場合によっては3ヶ月以上かかる事があるため、全ての患者さんの同意が得られることはない。希望者のみに行う事になる。

フラビーガムのある症例の印象採得をどうするか？



下顎歯槽の殆どにフラビーガムのある症例の印象採得



指で押すと歯槽頂が動く……

こっちも歯槽頂が動く……



右の後臼歯隆起から左の後臼歯隆起まで全てフラビーガムという珍しい症例

とりあえず『フラビーガム部』をブロックしてみました。



スタディモデルの歯槽頂をほぼ全部ブロックしました。

『個人トレー』を工夫してフラビーガムに対応

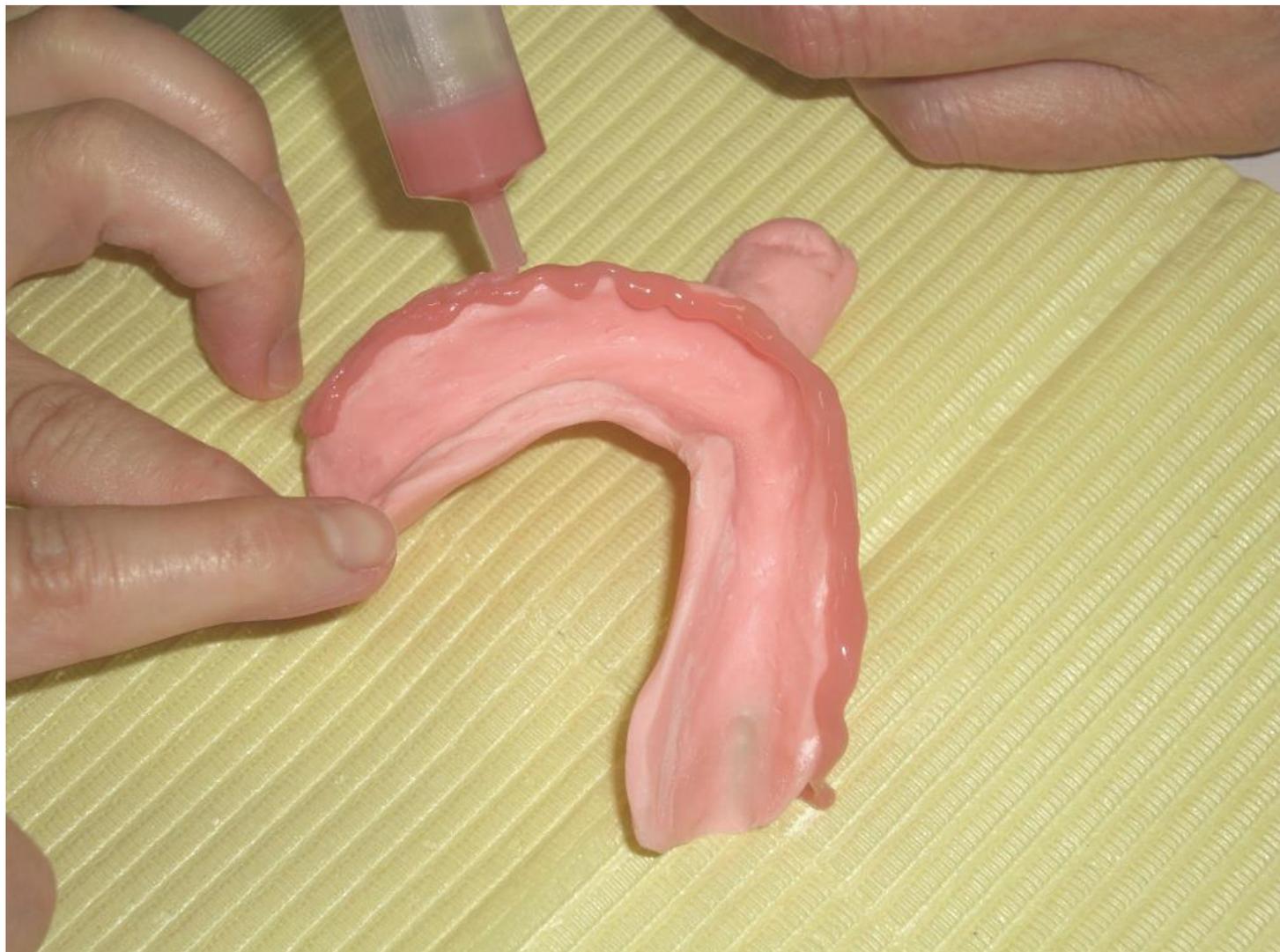


次に、フラビーガム部を無圧的に印象するにはどうしたらよいか考える。
しかし、当然シリコン裏装義歯を作製するには加圧印象の方が良い!

フラビーガム部は歯槽頂なので辺縁を加圧気味
に印象採得できれば、あとは何とかなる?・・・か?



まずは、唇側辺縁を決めよう!



ペリモールドを指で整形する。



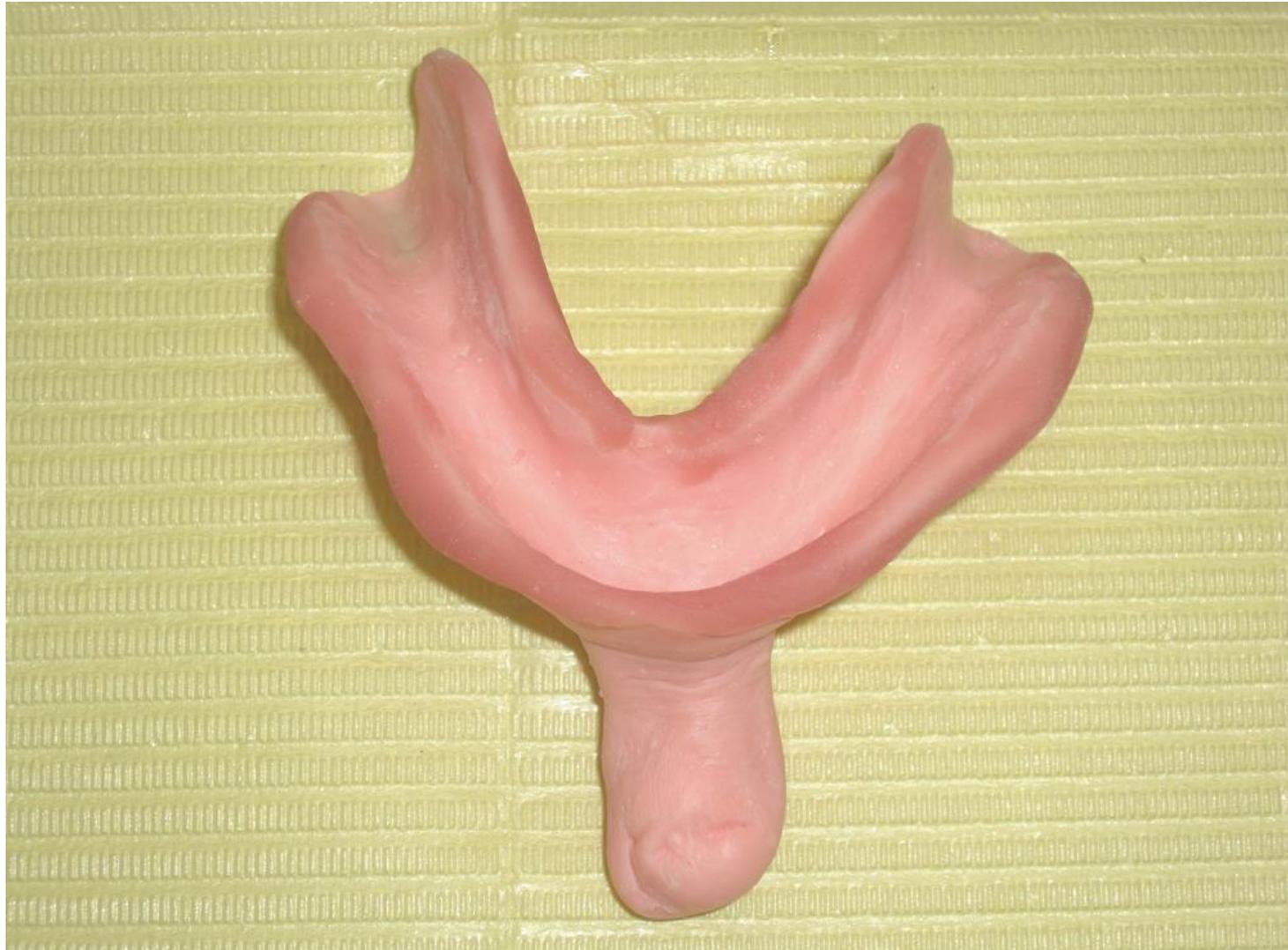
口腔内で筋圧形成? を行って採得された辺縁



少し余分な部分はトリミング



同様にして舌側床縁を探る作業を行う



フラビーガム部に印象材の頓路を設ける



歯槽頂に全て印象材の逃げ道が出来た状態

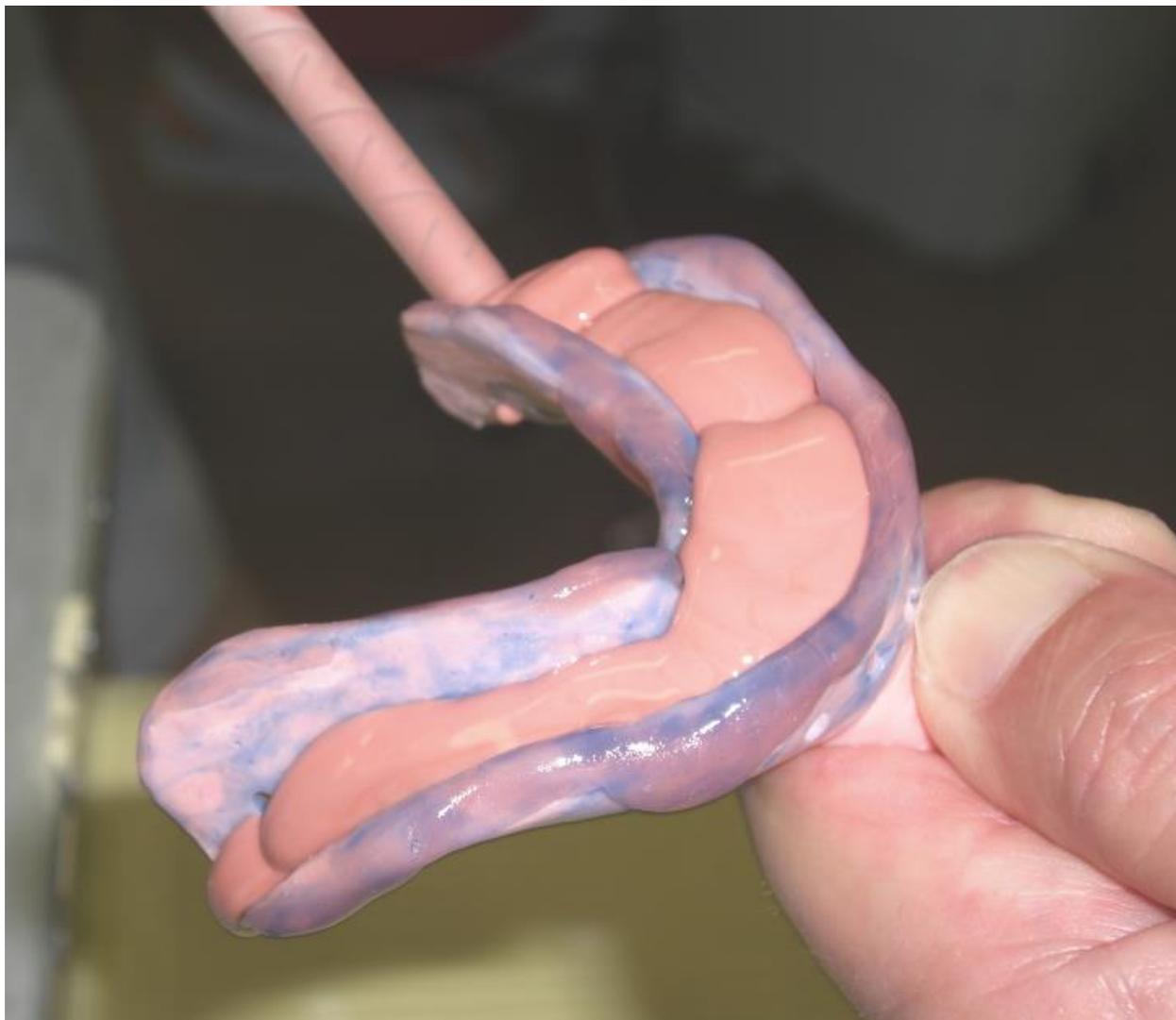


床縁部分に近いところには穴を開けない。

印象材の接着剤を塗布



『インジェクションタイプ』の流れの良い印象材



ゆっくりと口腔内の所定の位置まで沈める



所定の位置に納まったら、少し加圧気味に保持する。暫く眺めていると、印象材が穴からジワジワ出て来る。印象材の動きが止まったら、硬化を待つ。

印象が採得された!



歯槽頂部は無圧的に、床縁部は加圧されて印象が採得されている様に見える。

左右観でフラビーガムがきれいに印象されている



この模型なら作業用模型として使用できそう !!





粘膜過負担型義歯と 咬合圧分散型義歯

どちらが良く噛めるの？



「全歯咬合」



「小白歯のみ咬合」



う～ん!

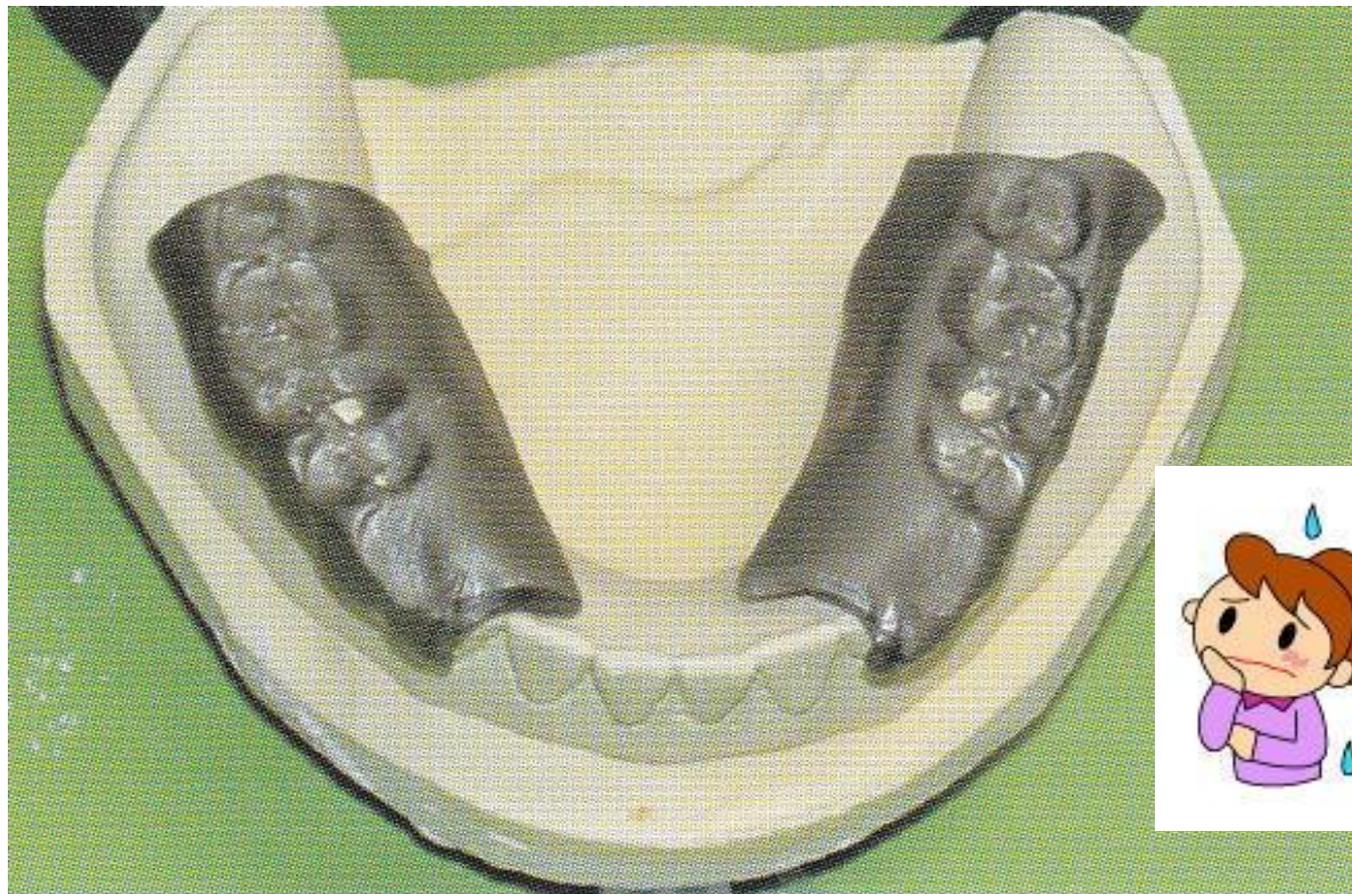


図 4-203

こんな状態でOK



総義歯では5番を中心に咬合させ、他は接触を逃がし咬合させない。

「これじゃ～、かめないでしょう！」と皆が言うが、患者は「**楽になった・痛くありません・具合がよい**」と言ってくれる。

その患者に「全歯咬合」と「小臼歯のみ咬合」の写真を見せ、「どっちが良いかめると思えますか？」と尋ねると、「こっち」と全歯咬合を選ぶ。

今、あなたの入れ歯を「こちらのようにしたのです」と言うと、「ほんとうですか？」、でも「**楽になりました！**」「**ほんとうですね～！**」と言うのである。

咬合調整は左右のバランスを取れば良い。

咬合面は、ほとんど平坦に近く、いわゆる0度の状態で良い。

接触する歯が少ない、ということは、調整する部位が極めて少ないことになる。

少ない咬合部位は、咬合圧を広い義歯床で受け止めることになり、結果、義歯床は安定し、安心して咀嚼ができる、こんな推察をしている。



押着義歯のすすめ

義歯革命

押着義歯のすすめ

著：長谷川 清 長谷川歯科医院院長・歯学博士

どちらが良く噛めるの？



第一 歯科出版

口をすぼめると義歯が落ちる



鼻中隔下制筋の力は思ったより強いので、この部を避ける必要がある。



鼻中隔下制筋

鼻中隔下制筋(びちゅうかくかせいきん)は人間の頭部の浅頭筋のうち、鼻部周囲にかけての鼻筋群のなかで鼻中隔を下方にひく筋肉である。

筋肉の一方が皮膚で終わっている皮筋である。

人間において、鼻中隔下制筋の起始は口輪筋より起こり、鼻中隔に停止する。

デンフィット等で位置を確認する。



鼻中隔下制筋を避ける



この症例は意外と多い







旧義歯または基礎床の筋圧形成による 適切な辺縁形態を作り出す方法

- 下顎義歯の形態を覚える

適切な下顎総義歯形態の把握が義歯吸着改善の一番の早道。

- 適切な辺縁形態を付与する

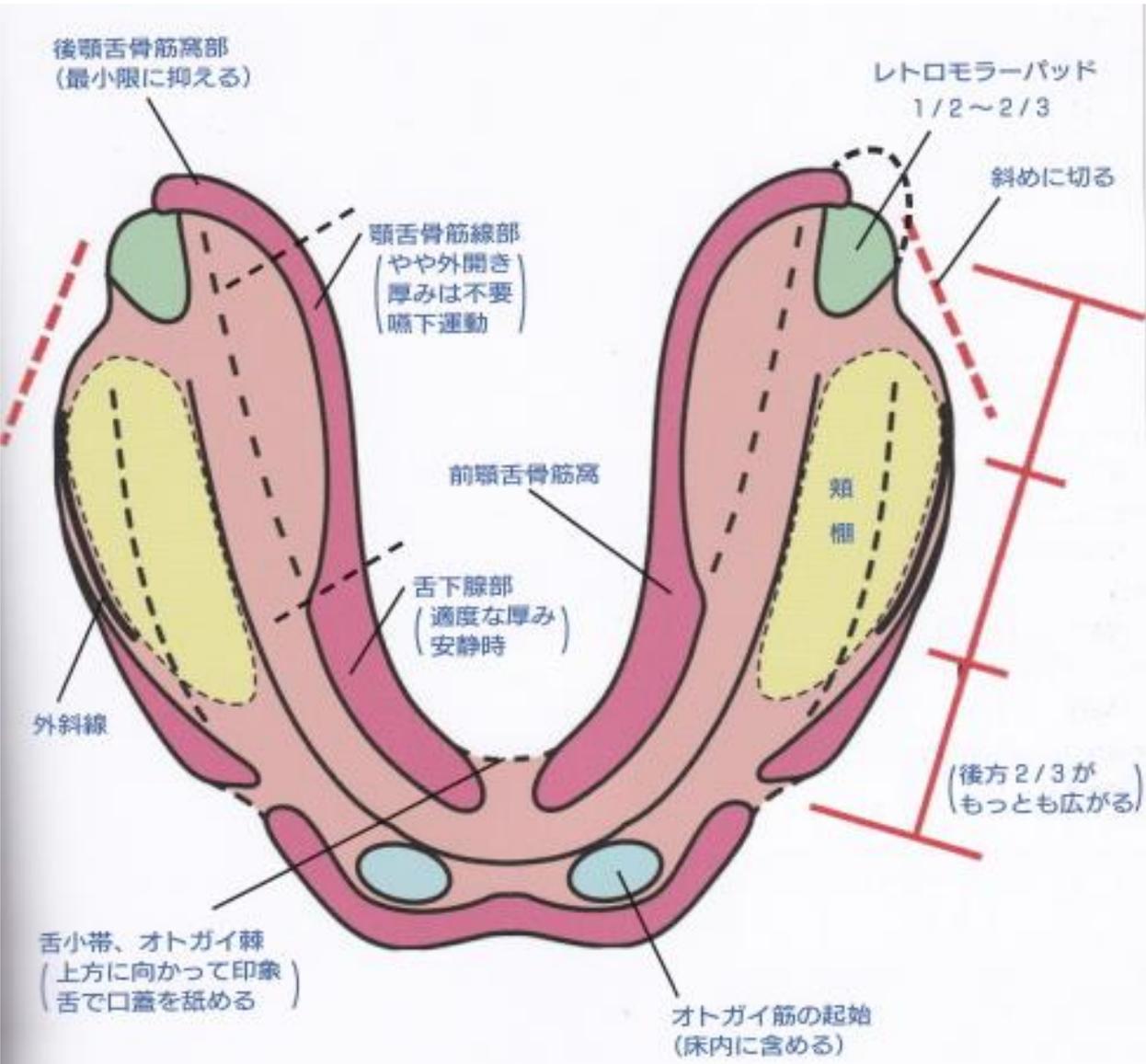
下顎総義歯の形態が頭に入ったら、これに従って 義歯を調整してゆく。

- 最後に咬合調整を徹底的におこなう

いくら内面が適切に設定されていてもバイトが不適切なら、義歯は安定せず、かえって痛みの原因となる。



下顎総義歯は義歯の形を覚えるというが……



『よい義歯 だめな義歯』 (鈴木哲也 クインテッセンス出版) より引用



合わない総義歯を入れていた患者さんの口腔内



この患者さんの義歯内面を少し粗造にする





まず、後臼歯隆起部・前歯部唇面にペリモールドの接着剤を塗布する



ペリモールドを定法に従って練和する



まず、後臼歯隆起部にペリモールドを盛る



まず、片側の後臼歯隆起部にペリモールドをゆっくりとシリンジから押し出して盛ってゆく
次に反対側にも同様にペリモールドを盛る



次に下顎前歯部舌側面にも盛り上げる



ペリモールドは硬化時間が長いので、あまり慌てる必要はない。ゆっくりと盛り上げる。

ペリモールドの整形



指を水でぬらして、頭の中にある義歯の形態のイメージに従って形態を整える

ペリモールドの口腔内での整形



やがて、ペリモールドに程よい弾性が出てきて、糸をひかなくなる。この時期に患者さんの口腔内に義歯を挿入して、まず前歯舌側部を指で粘膜に押し付けて整形する。次に、後臼歯隆起を良く見ながら、適切な形態に整えてゆく。この動作はペリモールドが硬化するまで何回か繰り返し、ペリモールドを粘膜に出来るだけ密着させる。

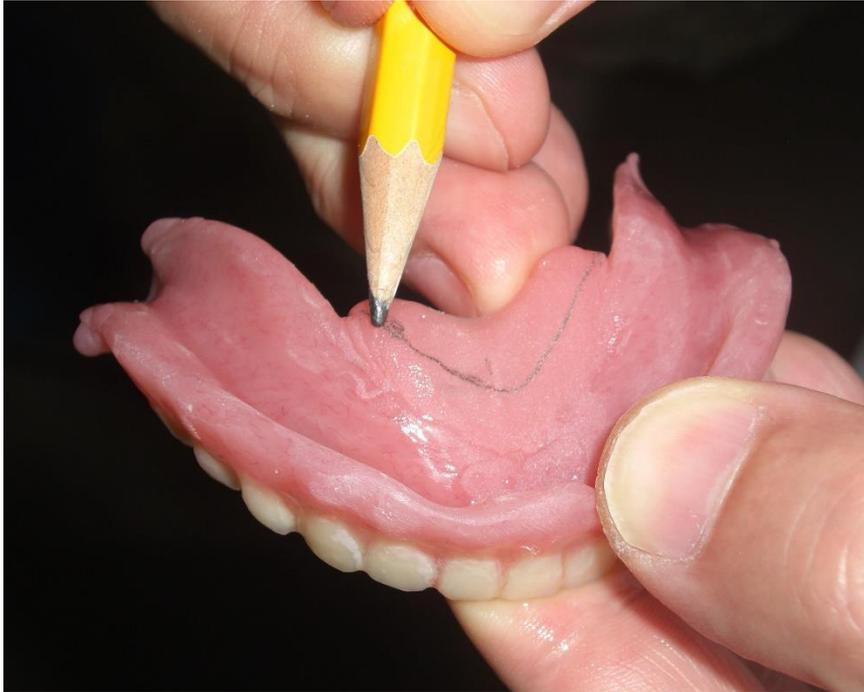


口腔内より取り出した義歯



左側の後臼歯隆起頬側部外側にもう少し材料が追加されると、左右対称に近くなる。

前歯舌側部の余剰部分を削合調整する

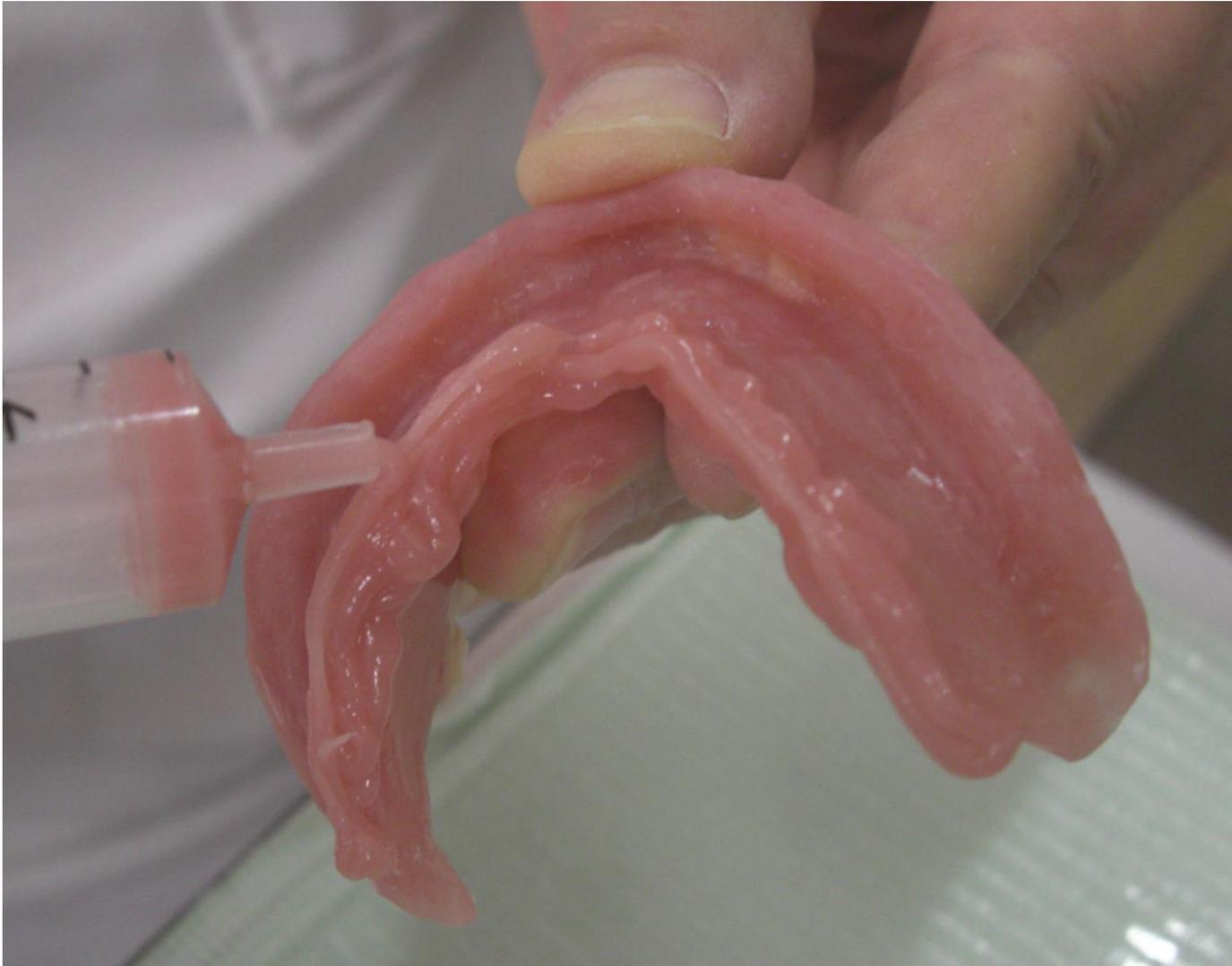


ここで、**口腔内を触診したり、目視で舌を上にした時の舌小帯の様子を良く観察して、辺縁のラインを鉛筆で記入する。**
あとは、余剰部分をていねいに削除してゆく。

義歯舌側床縁部分にペリモールドの接着剤塗布



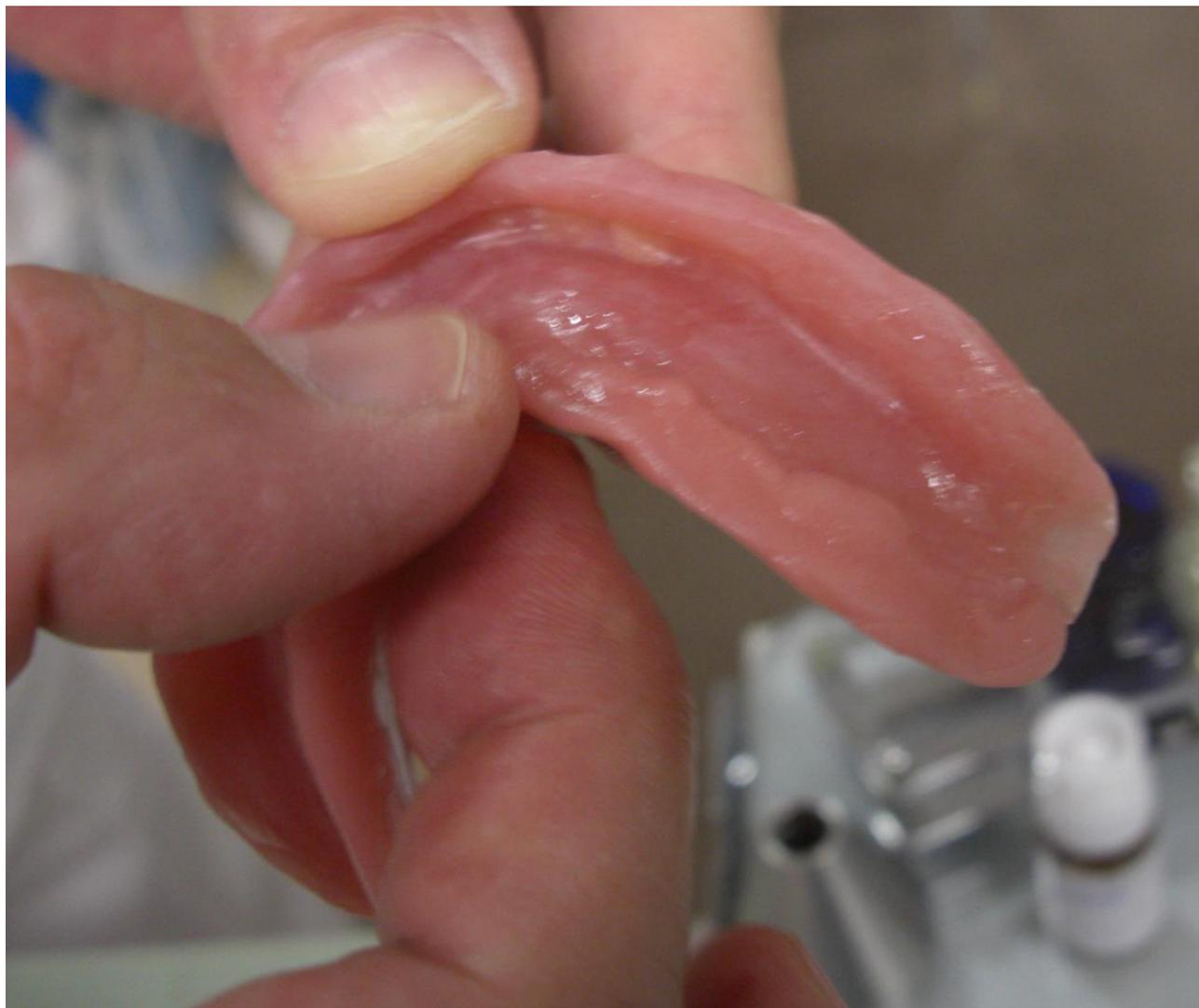
ペリモールドを練和して舌側に盛ってゆく



あわてずに、少しずつゆっくりと盛りあげてゆきます。操作時間は十分にあります。



指を水で濡らして整形を行う



顎舌骨筋線部は、咬合面とほぼ平行になるように整形します。

舌下腺部は口腔底に届くように量を加減する





口腔内での筋圧形成

- 歯列全体で強くかんでもらう
 - 『ウ』の発音
 - 『イ』の発音
 - カチカチ咬んでもらう(タッピング運動)
 - 舌を出して上唇をなめる
 - 『唾』を飲み込む
-
- 舌を突き出してもらい、左右に振る動作
(これは必要がある場合のみ)

舌側部の筋圧形成が終了



続けて、頬側部にペリモールドを盛るために、接着剤を塗布。

頬側床縁部にペリモールドを盛る



口腔内に戻して、筋圧形成をおこなう。

床縁部の形成が終了した状態



最後に内部の適合を図るためにクラリベースの 接着剤を塗布し、クラリベースを練和する



内部にクラリベースを填入し筋圧形成をおこなう



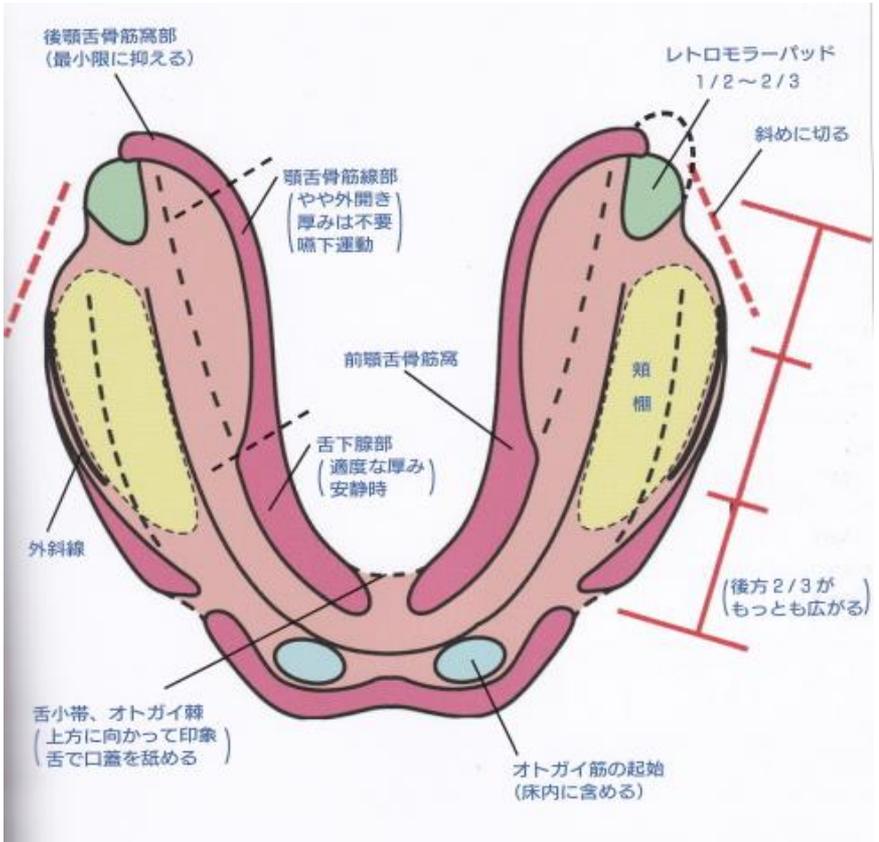
筋圧形成終了後、口腔内から取り出した状態



あとは、不必要な部分を除去し研磨を行えばよい。



『義歯の形』と筋圧形成された旧義歯を検討



実際にこの義歯は下顎にピッタリ吸着し外れにくい



しかも、この状態で、片側性平行咬合が得られている

同様にして旧義歯を改造した別症例



左右の臼歯部でミラーの柄をかんでもらっても、義歯の転覆は全く起こらない

前歯部でミラーの柄を咬んでももらった状態



この患者さんは、上も総義歯であったが、上の総義歯の吸着が良かった為か前方クリステンゼン現象による、上顎義歯の転覆も見られなかった。

結論として、**下顎義歯は『義歯の形』を早く覚えた方が得策**だといえる。
出来上がった義歯が、自分の頭の中にあるイメージと異なる場合には、その理由を良く考え、修正を加えて出来るだけイメージに近い形にする事が大切。



床概形線を理解するのに良い参考書籍

